
第2章 苫小牧市人口ビジョン

1. 人口ビジョンの基本的な考え方

人口ビジョンの位置づけ

苫小牧市総合戦略の内容（基本目標や施策）を講ずる際の基礎資料とするため、人口ビジョンでは、苫小牧市の人口の現状（人口動向や市民意識等）を取りまとめています。その上で、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示しています。

人口ビジョンの対象期間

人口ビジョンの対象期間は、国の長期ビジョンと合わせ、2015年(平成27年)～2060年(平成72年)とします。

2. 人口の現状分析

(1) 人口動向の分析

人口動向調査概要

人口減少に関する各種課題の要因を明確にするため、国の人口統計データ等から苫小牧市の人口推移の現状や将来推計、産業構造等の把握、分析を行いました。(以下、分析結果をまとめています。グラフ等の詳細については、8 ページ以降に掲載しています。)

総人口

苫小牧市の総人口は、173,798 人(2015 年 10 月末現在)となっています。1980 年に 15 万人であった人口は、この 30 年間おおむね増加を維持し、2010 年には 17 万人に達しました。

しかし、国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の推計によると、これまで増加傾向にあった苫小牧市の総人口は、2010 年以降、減少局面を迎えると見込まれています。また、年齢区別に人口をみると、老年人口(65 歳以上)は 2020 年までは増加する見込みですが、年少人口(15 歳未満)や生産年齢人口(15~64 歳)は減少すると見込まれています。これは、将来的に地域を支える年齢層の人口は減っていくことを示しており、地域経済に深刻な影響を与えることとなります。

自然増減

苫小牧市の出生数は、1,486 人(2013 年)で、おおむね横ばいで推移しています。合計特殊出生率は 1.51(2010 年)となっており、北海道(1.25)や全国(1.38)の水準を上回っているものの、15 歳~39 歳の女性人口は減少傾向にあり、将来的には、母親となる年齢層の人口が減っていくと、同じ合計特殊出生率を維持したとしても、子どもの数は減ることが懸念されます。また、出生数と死亡数を比較すると、出生数は横ばいですが、死亡数が増加傾向にあり、2012 年には、死亡数が出生数を上回っています。

社会増減

年齢区別の人口移動をみると 20~30 歳代が、転入、転出ともに多くなっています。純移動では、若年層(10 歳~19 歳)転出超過の傾向が顕著にみられ、大学進学や就職を機に苫小牧市を離れる若者が多いことがうかがえます。

雇用・産業

苫小牧市の産業構造をみると、「卸売業，小売業」の従業者が最も多く、「卸売業，小売業」「製造業」「建設業」「医療，福祉」で全体の 50.7%を占めています。男女別では、男性は「製造業」「建設業」「運輸業・郵便業」の順に多く、女性は、「卸売業，小売業」「医療，福祉」「宿泊業・飲食サービス」の順に多くなっています。

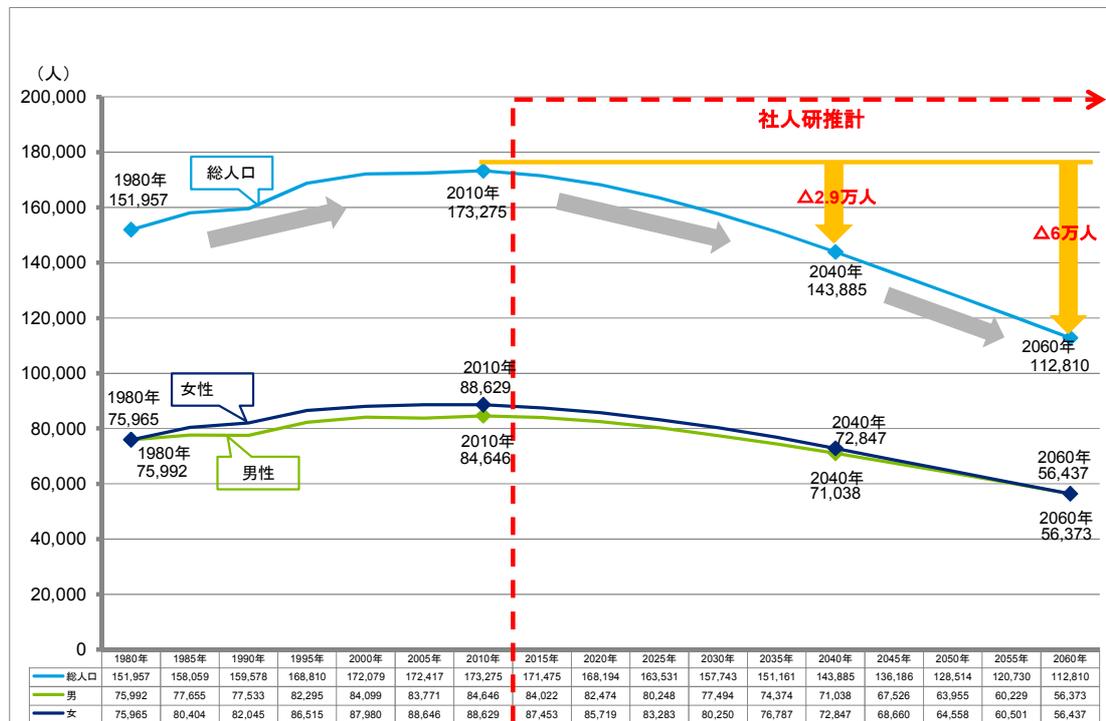
「正規の職員・従業員」の割合をみると、男性では 67.4%であり、全国水準（61.6%）、北海道水準（60.7%）よりも高い水準にあることがわかります。一方で、女性では 33.7%となっており、全国水準（37.0%）をやや下回り、北海道水準（33.7%）とは同じくらい水準にあります。

将来人口推計

社人研の推計によると、苫小牧市の人口は、2040 年には約 14.4 万人、2060 年には 11.3 万人まで減少すると見込まれていますが、仮に【シミュレーション 1】として、合計特殊出生率が 2030 年までに 2.1 まで上昇した場合の推計を行うと、2040 年に 15.3 万人、2060 年に 13.3 万人となり、現状の推計より 2040 年時点で約 0.9 万人、2060 年時点で約 2.0 万人多い人口が維持できる計算になります。【シミュレーション 2】として、仮に、合計特殊出生率が 2030 年までに 2.1 まで上昇し、加えて人口移動が均衡した（移動がゼロとなった）場合では、2040 年に 15.7 万人、2060 年に 13.9 万人となり、現状の推計より 2040 年時点で約 1.3 万人、2060 年時点で約 2.6 万人多い人口が維持できる計算になります。【シミュレーション 1】と【シミュレーション 2】との差は、人口移動が均衡した際の効果を示すもので、2040 年時点で約 0.4 万人、2060 年時点で約 0.6 万人となります。この数値を【シミュレーション 1】で見られる合計特殊出生率による効果と比較しますと、合計特殊出生率を引き上げる効果の方が大きいことがわかります。

【図1 総人口の推移、推計】

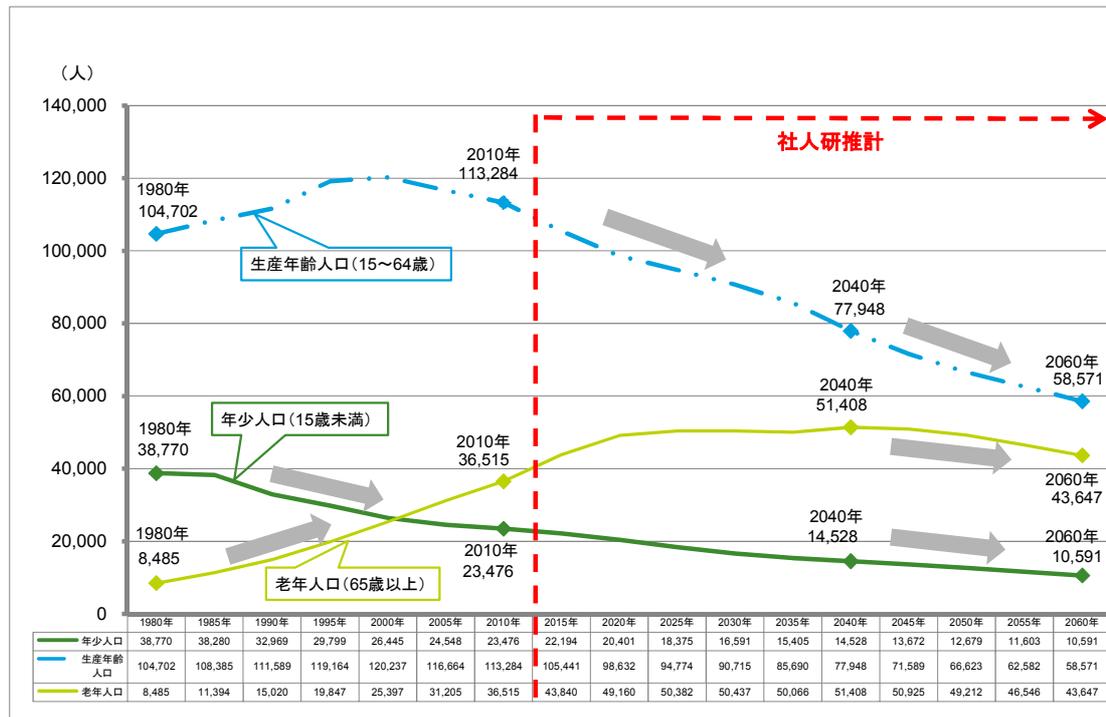
社人研によると苫小牧市の総人口は、2010年をピークに減少すると推計されており、2040年には約2.9万人、2060年には約6万人の減少が見込まれます。



出所:国勢調査(1980年～2010年)、社人研推計(2015年～2060年)のデータをもとに作成

【図2 年齢区分別人口の推移、推計】

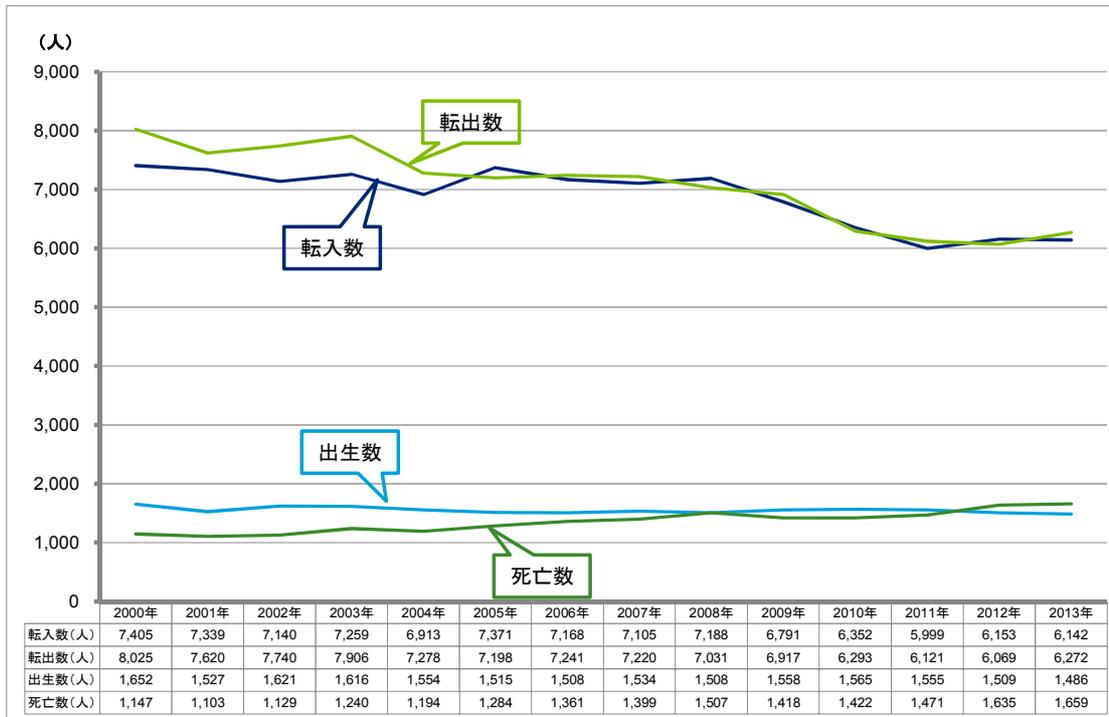
生産年齢人口及び年少人口が減少する一方、老年人口は2020年にかけて増加傾向で推移し、2040年には2010年の約1.4倍となる見込みです。



出所:国勢調査(1980年～2010年)、社人研推計(2015年～2060年)のデータをもとに作成

【図3 出生数、死亡数、転入者数、転出者数の推移】

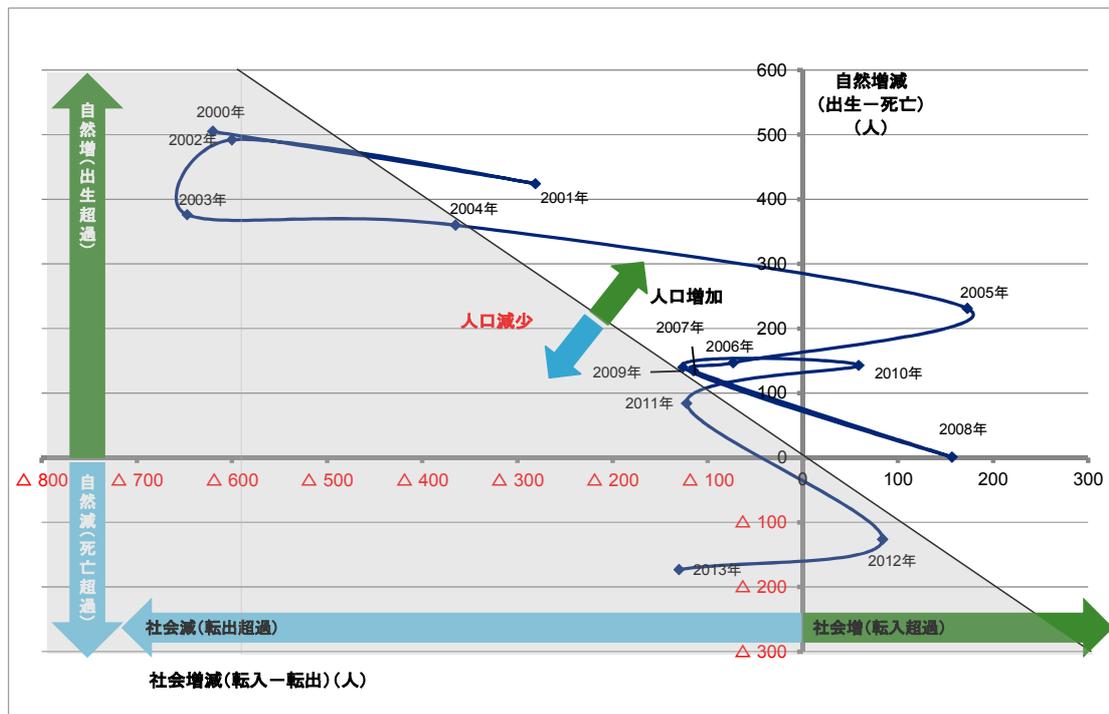
2001年から2011年までは出生数が、死亡数を上回っていましたが、2012年以降、死亡数が出生数を上回り、自然減の傾向にあります。



出所:住民基本台帳、人口動態調査(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図4 人口増減の影響度分析】

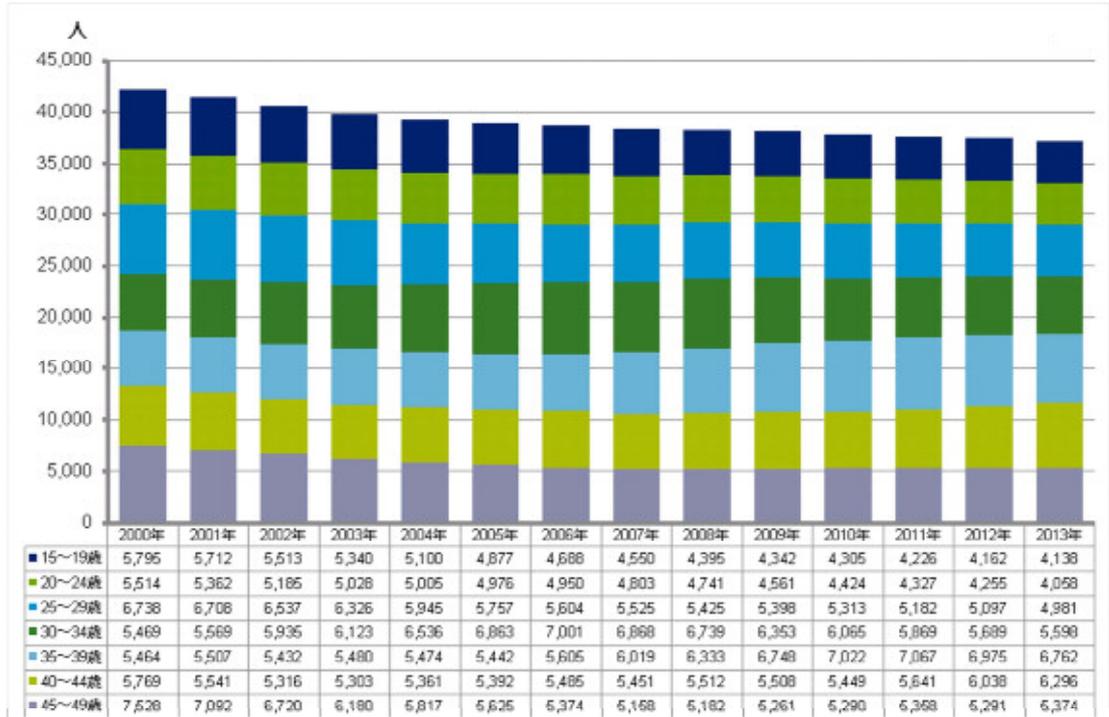
これまで自然増(出生数が死亡数を上回っている状態)が続いていましたが、2012年以降はマイナスに転じています。



出所:住民基本台帳、人口動態調査(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図5 15～49歳男性人口の推移①】

15～49歳の男性人口の総数は、2000年から2013年の間で、約12.0%減少しました。



出所:住民基本台帳(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図6 15～49歳男性人口の推移②】

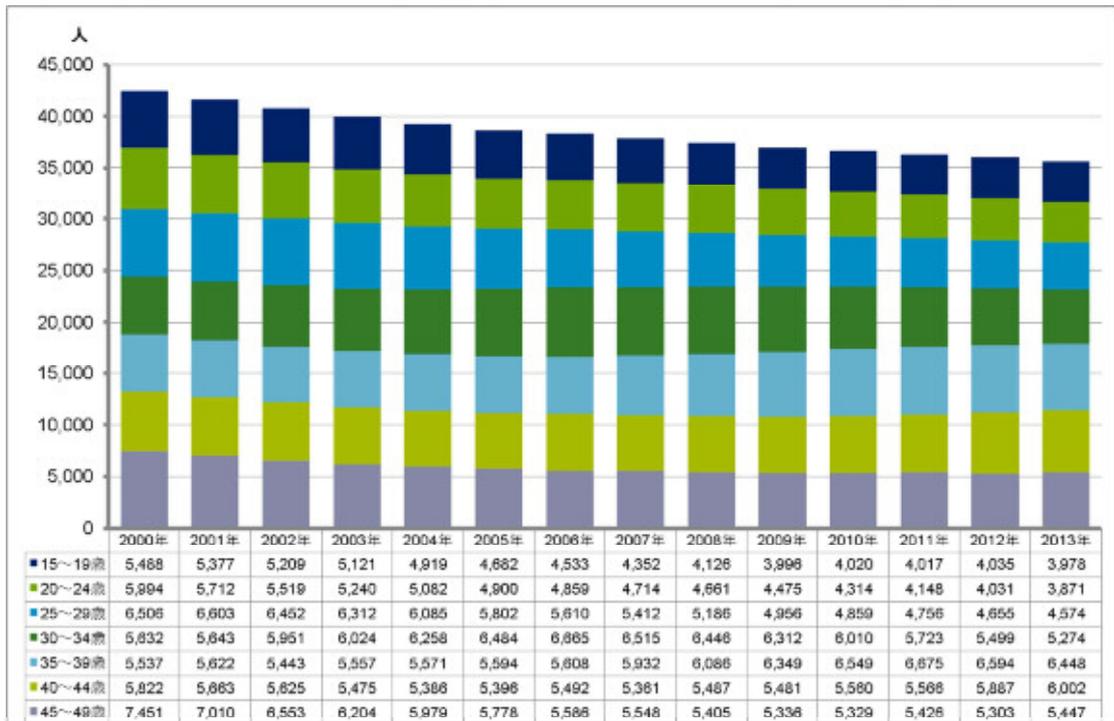
各年齢の男性人口は、近年、40～44歳では増加傾向にありますますが、20～34歳の層は減少傾向にあります。



出所:住民基本台帳(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図7 15～49歳女性人口の推移①】

15～49歳の女性人口の総数は、2000年から2013年の間で、約16.0%減少しました。



出所:住民基本台帳(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図8 15～49歳女性人口の推移②】

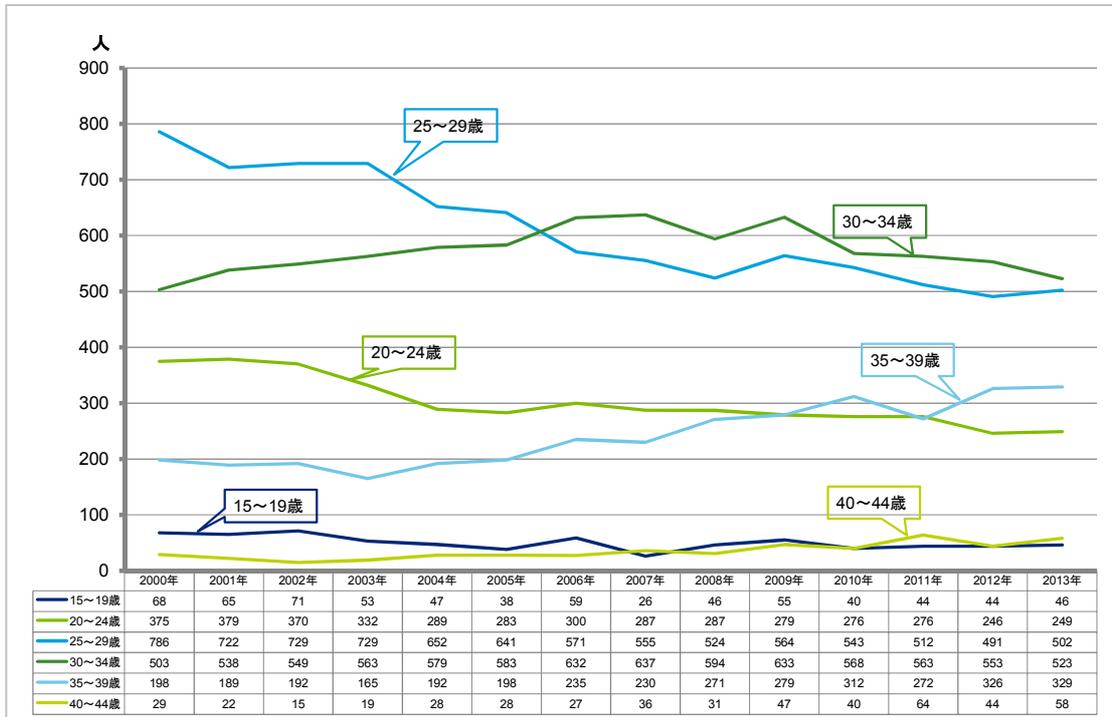
各年齢の女性人口は、近年、40～44歳では増加傾向にあります。20～34歳の層は減少傾向にあります。



出所:住民基本台帳(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図9 母の年齢別出生数の推移】

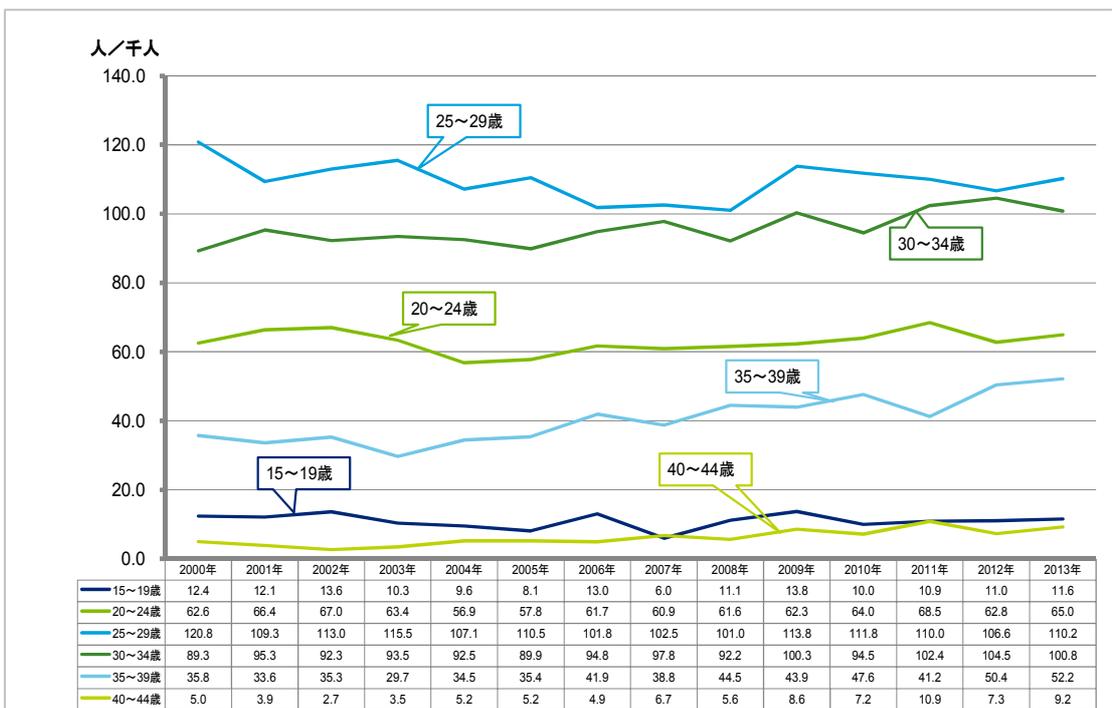
女性の年齢別出生数の推移は、20歳代では減少傾向にあるのに対し、35歳以上では増加傾向にあります。



出所: 人口動態調査(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図10 女性1,000人当たり出生数の推移】

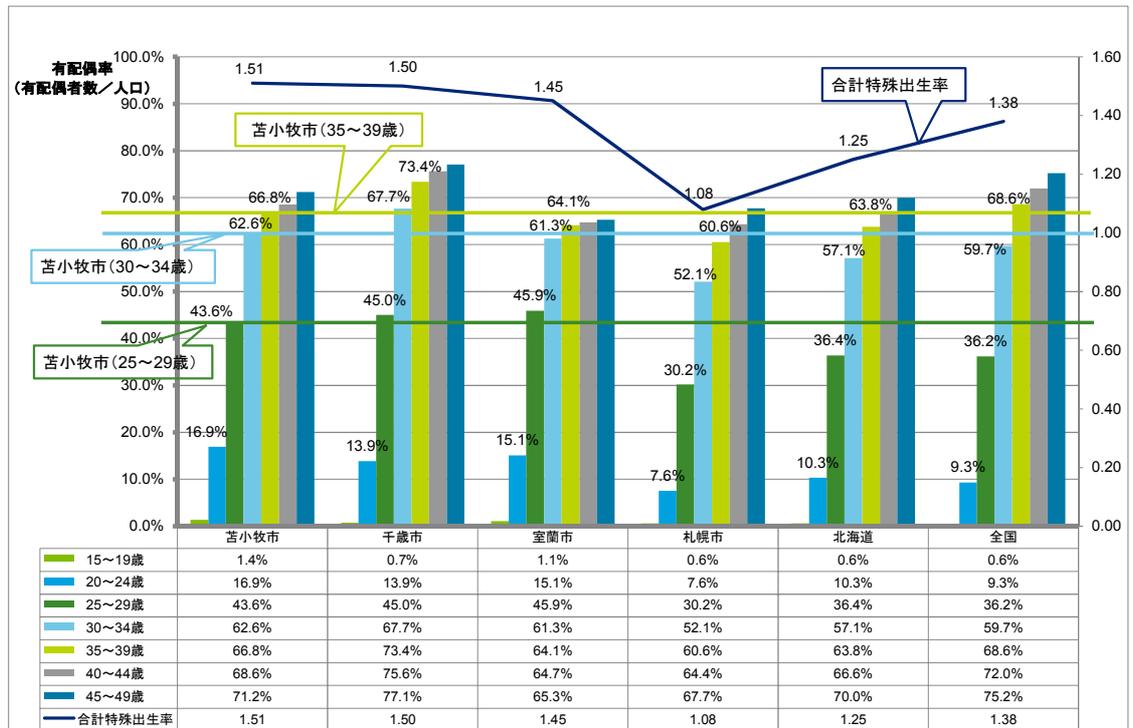
女性人口1,000人当たりの出生数の推移は、近年は、20歳代ではほぼ横ばいであり、30歳以上では上昇傾向にあります。



出所: 人口動態調査(2000年～2013年)のデータをもとに作成

【図 11 女性の有配偶率、合計特殊出生率比較】

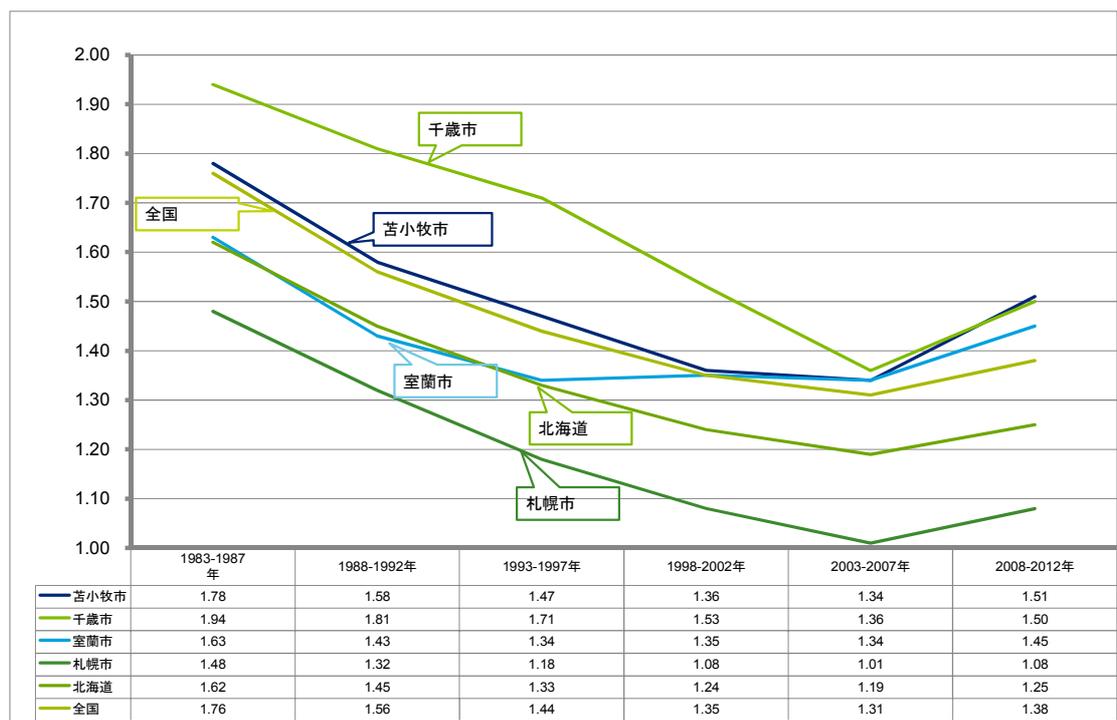
合計特殊出生率及び女性の有配偶率は、苫小牧市は北海道水準や、道内の他の市よりも、高い水準にあります。



出所: 国勢調査(2010年)のデータをもとに作成

【図 12 合計特殊出生率の推移比較】

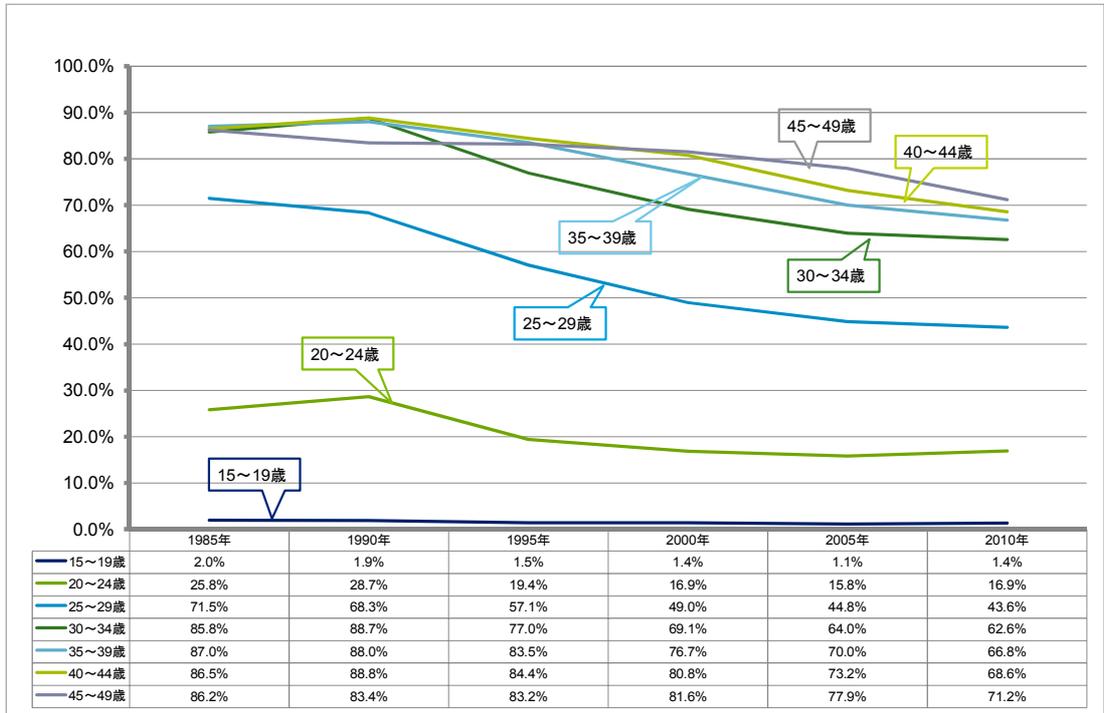
苫小牧市の合計特殊出生率は 1983 年以降、北海道水準よりも高い水準を維持し続けており、現在は 1.51 となっています。



出所: 人口動態調査(1983～2012年)のデータをもとに作成

【図 13 年齢階級別有配偶率の推移①／女性】

女性の有配偶率は、全体的に低下しており、特に 25～34 歳の女性の有配偶率の低下が著しいです。



出所:国勢調査(1985年～2010年)のデータをもとに作成

【図 14 年齢階級別有配偶率の推移②／男性】

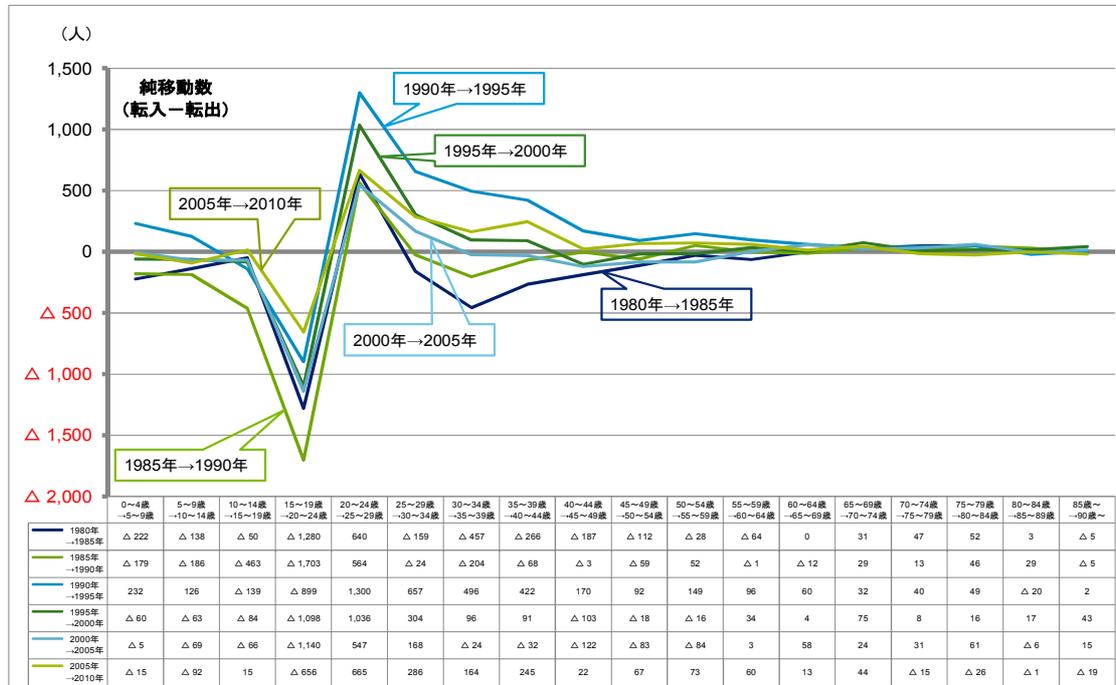
男性の有配偶率も、全体的に低下しており、特に 30～39 歳の男性の有配偶率の低下が著しいです。



出所:国勢調査(1985年～2010年)のデータをもとに作成

【図 15 年齢階級別人口移動の状況の長期的動向①／男性】

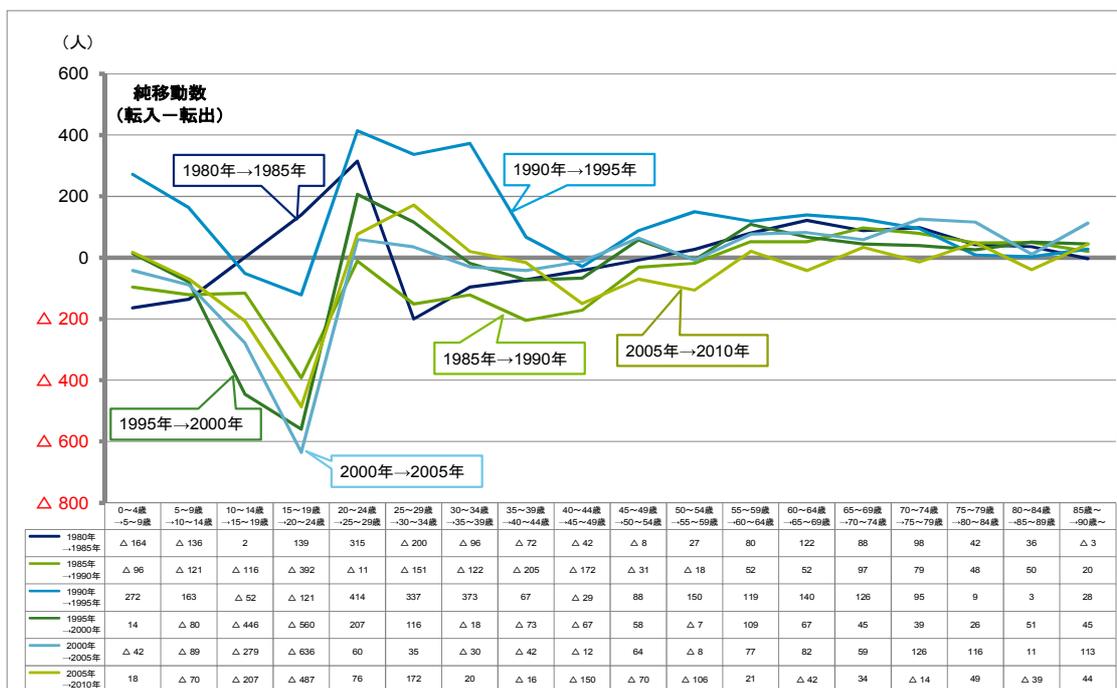
10～20 歳代にかけては転出超過（転出者数が転入者数を上回る）、20～30 歳代にかけては転入超過（転入者数が転出者数を上回る）の傾向は長期的に変化していません。「2005 年→2010 年」は、男性の 10～14 歳、25～69 歳で純移動数がプラスになっています。



出所:国勢調査(1985年～2010年)のデータをもとに作成

【図 16 年齢階級別人口移動の状況の長期的動向②／女性】

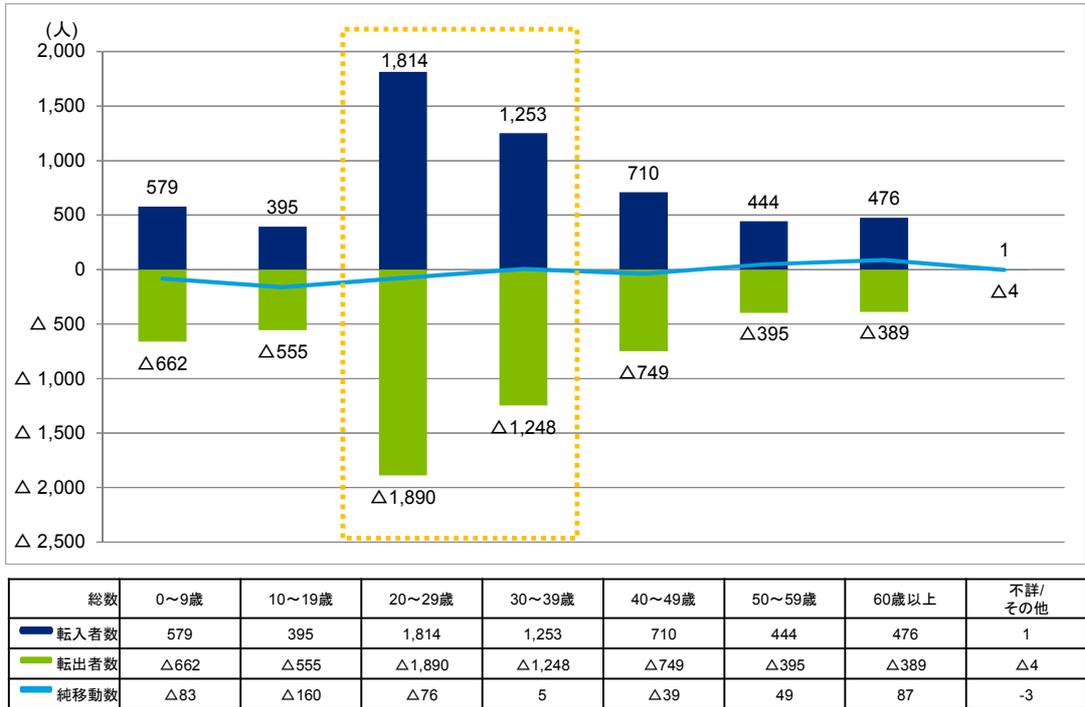
「2005 年→2010 年」にかけて、女性の 0～4 歳、30～34 歳で純移動数がプラスに転じた一方、60～64 歳、70～74 歳、80～84 歳でマイナスに転じています。



出所:国勢調査(1985年～2010年)のデータをもとに作成

【図 17 年齢区分別、転入・転出者数】

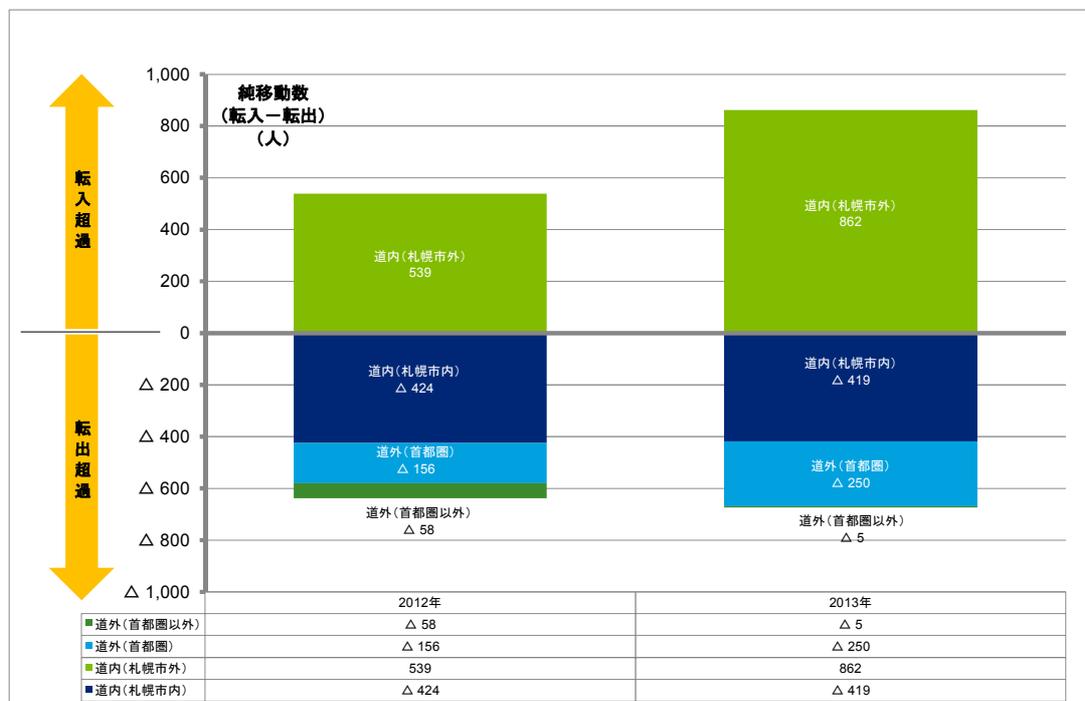
年齢区分別の住民移動では20～30歳代が、転入、転出共に多くなっています。



出所:住民基本台帳移動報告(2014年)のデータをもとに作成

【図 18 移動先別人口移動の状況】

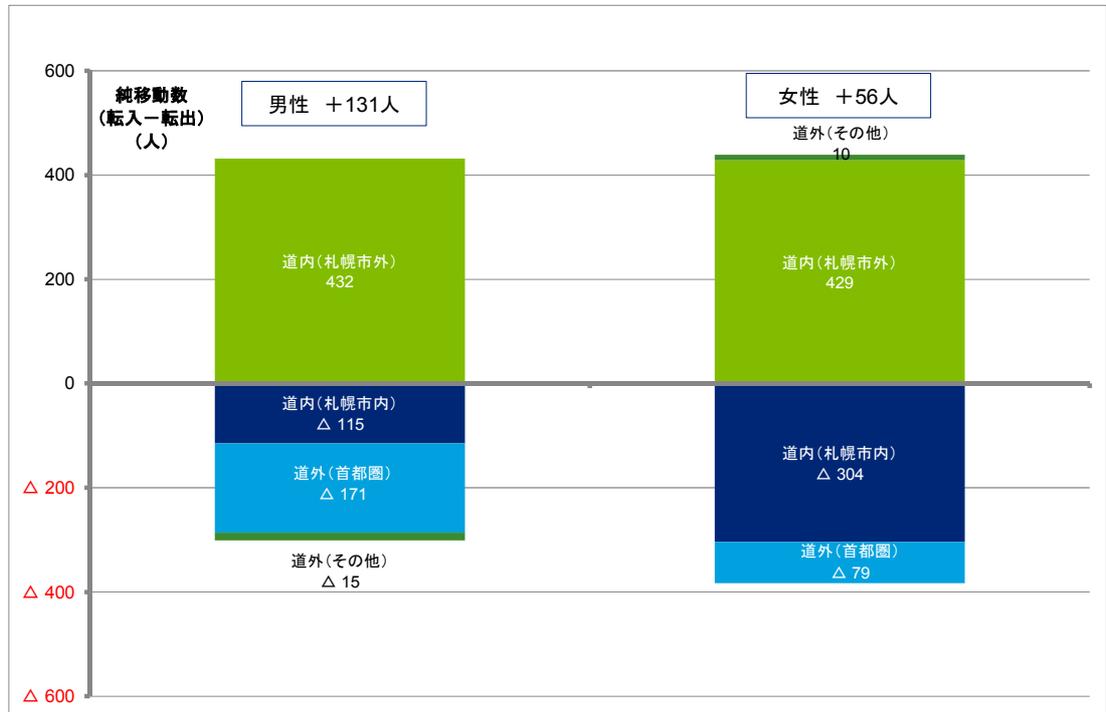
2012～2013年は札幌市以外の道内からの転入超過、札幌市や首都圏への転出超過が顕著になっています。



出所:住民基本台帳人口移動報告(2012～2013年)のデータをもとに作成

【図 19 純移動者(男女別)の状況】

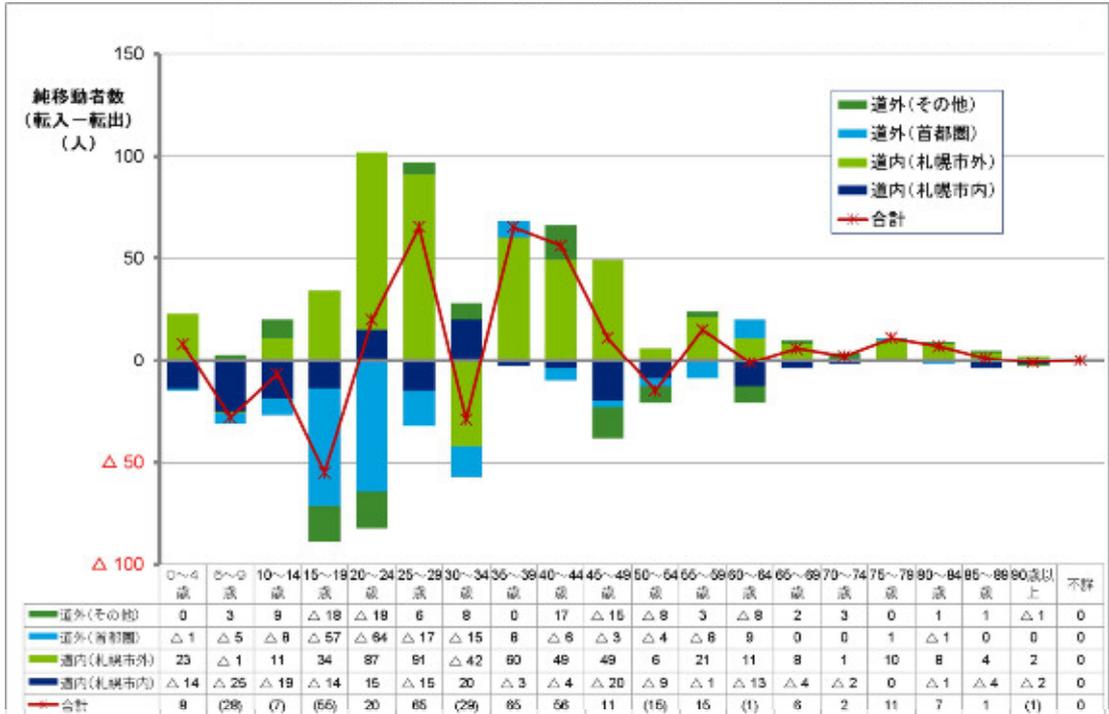
男性は首都圏への転出超過が多い一方で、女性は札幌市への転出超過が多いことがわかります。



出所:住民基本台帳人口移動報告(2013年)のデータをもとに作成

【図 20 年齢区分別純移動者の状況①／男性】

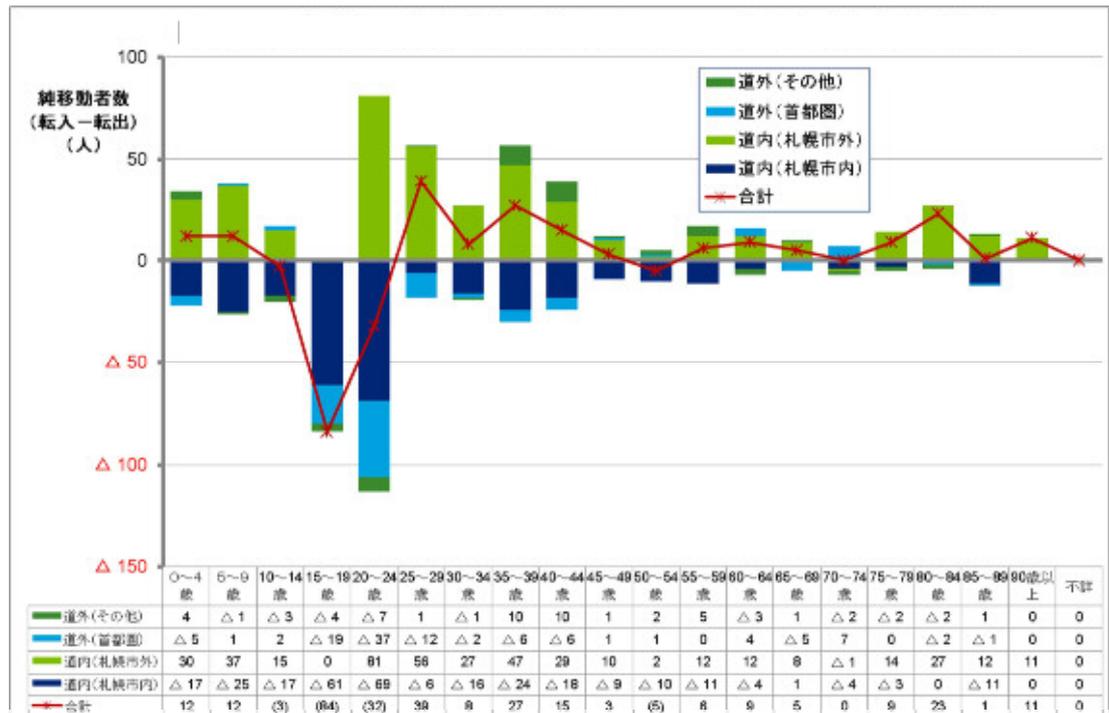
男性は 15～19 歳において、転出超過になっており、特に、首都圏への転出超過が多いことがわかります。



出所:住民基本台帳人口移動報告(2013年)のデータをもとに作成

【図 21 年齢区分別純移動者の状況②／女性】

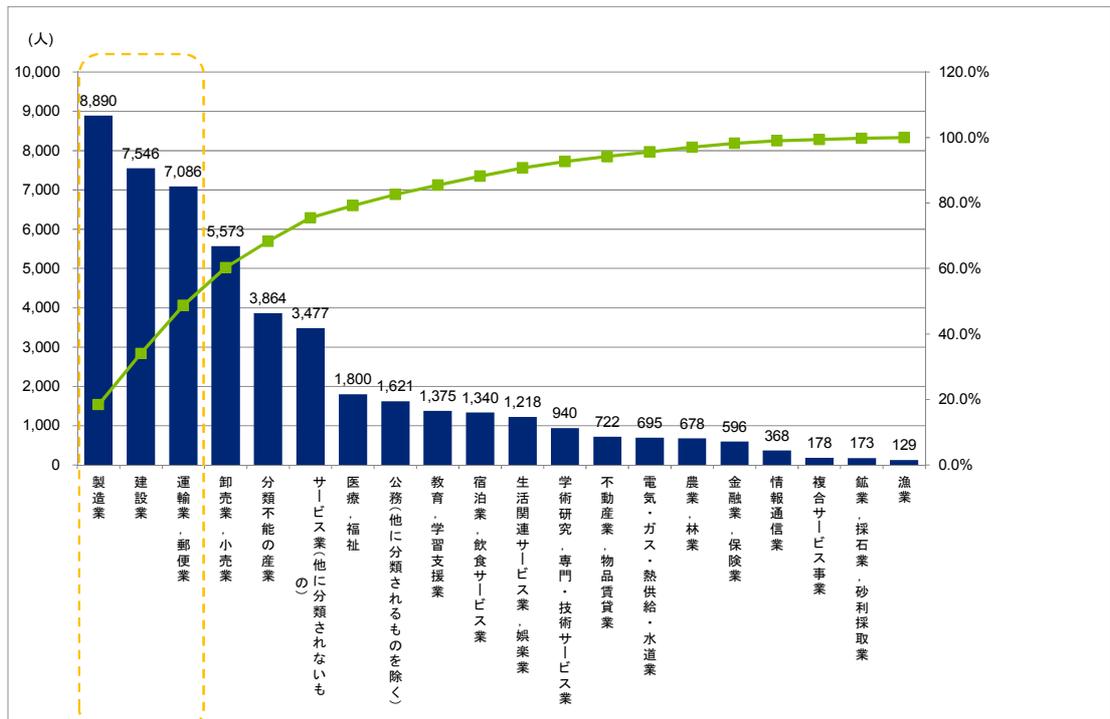
女性は 15～24 歳において、転出超過になっており、特に、札幌市内への転出超過が多いことがわかります。



出所:住民基本台帳人口移動報告(2013年)のデータをもとに作成

【図 22 産業別従業者数①／男性】

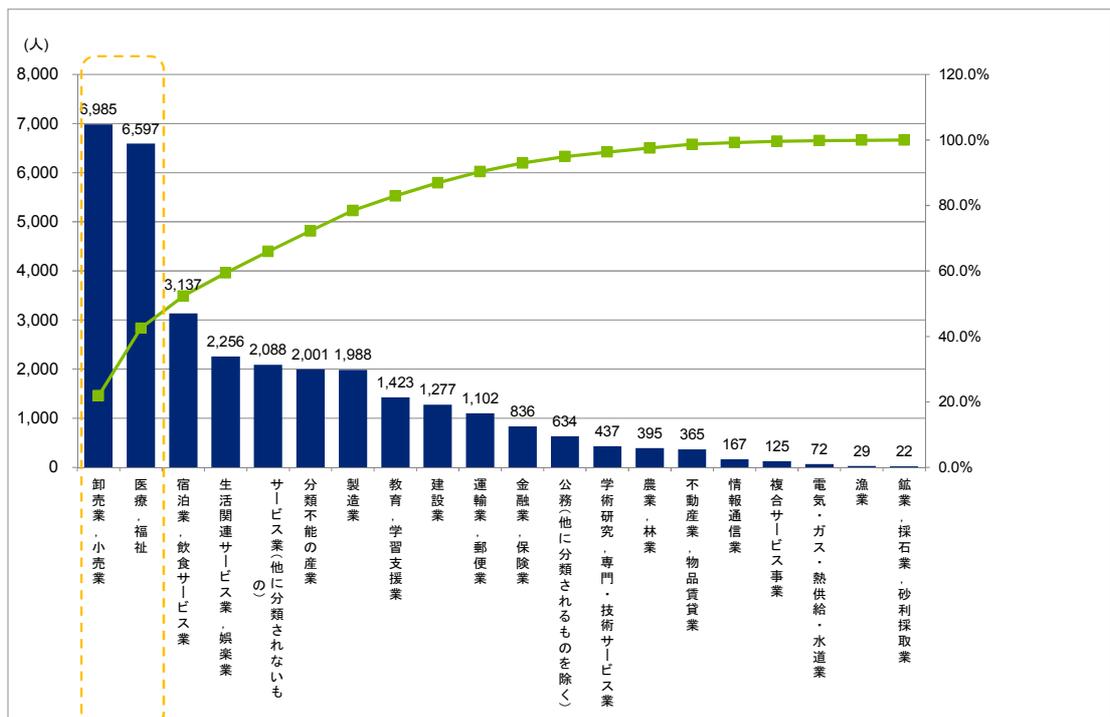
男性は「製造業」の従業者が最も多く、「製造業」「建設業」「運輸業，郵便業」で全体の48.7%を占めています。



出所:国勢調査(2010年)のデータをもとに作成

【図 23 産業別従業者数②／女性】

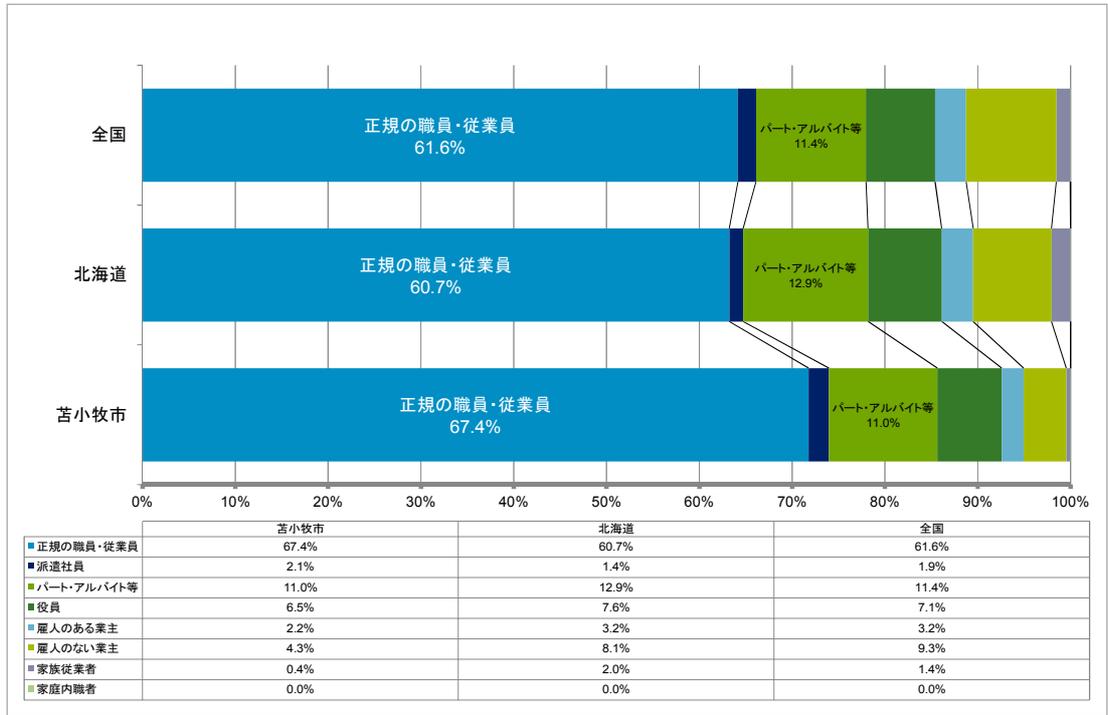
女性は「卸売業，小売業」の従業者が最も多く、「卸売業，小売業」「医療，福祉」で全体の42.5%を占めています。



出所:国勢調査(2010年)のデータをもとに作成

【図 24 従業上の地位別従事者①／男性】

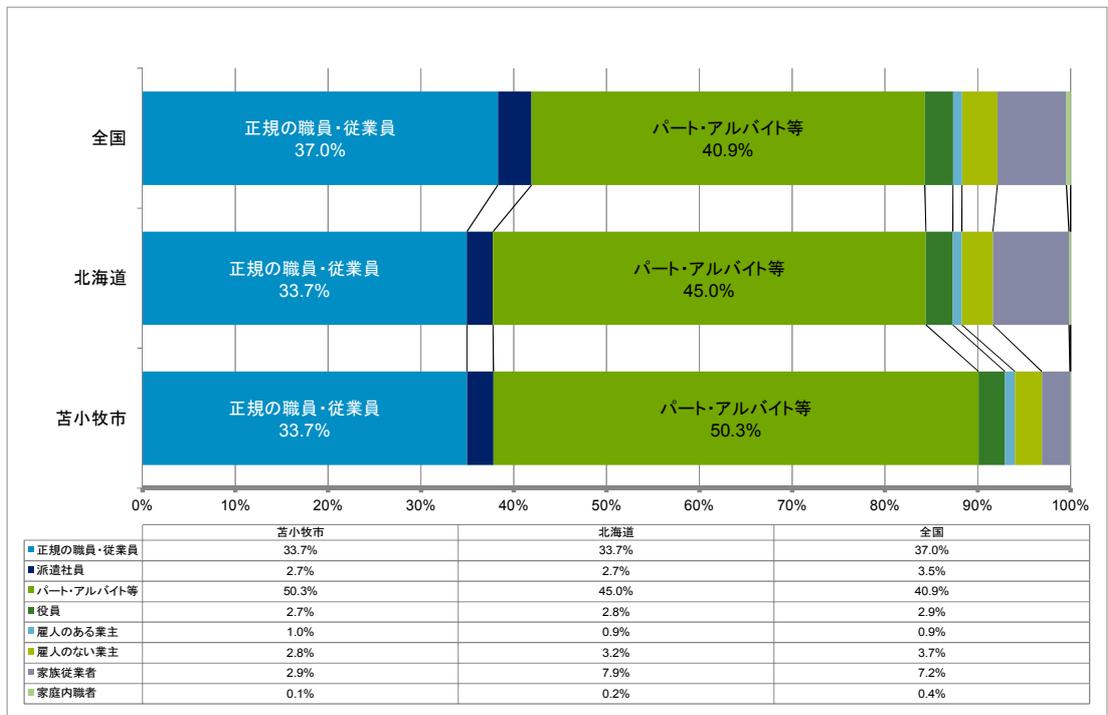
従業上の地位をみると、男性の正規の職員・従業員は全国水準、北海道水準よりも高くなっています。



出所: 国勢調査(2010年)のデータをもとに作成

【図 25 従業上の地位別従事者②／女性】

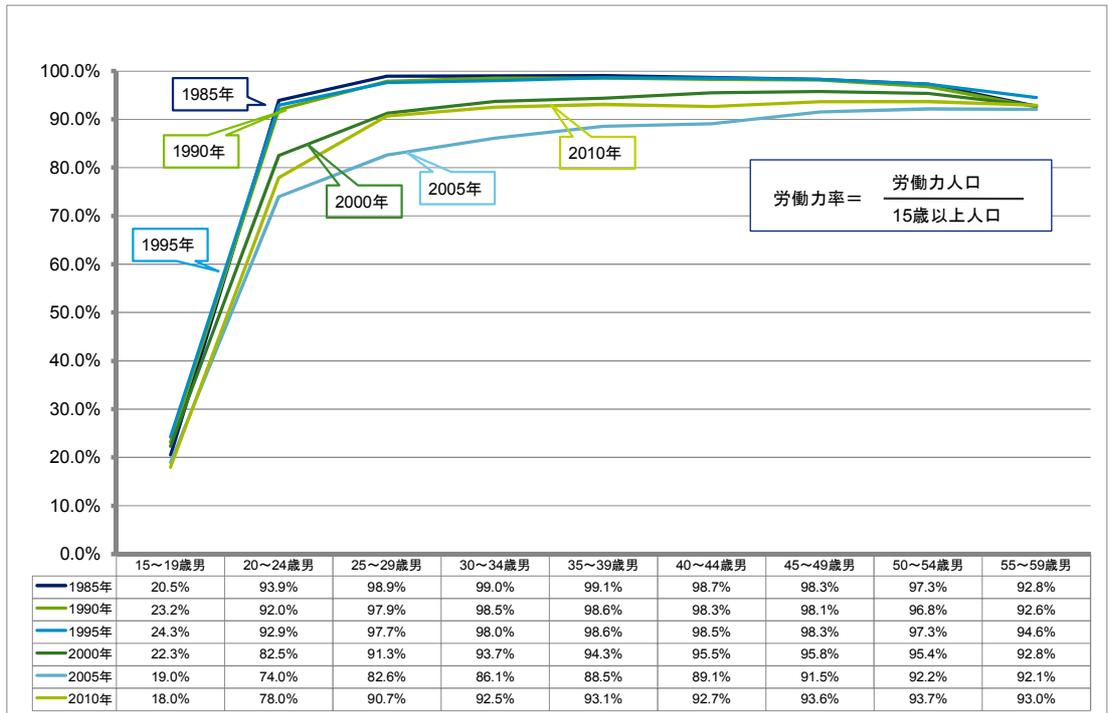
女性の正規の職員・従業員は北海道水準と同等であり、全国水準を下回っています。



出所: 国勢調査(2010年)のデータをもとに作成

【図 26 年齢階級別労働力の推移①／男性】

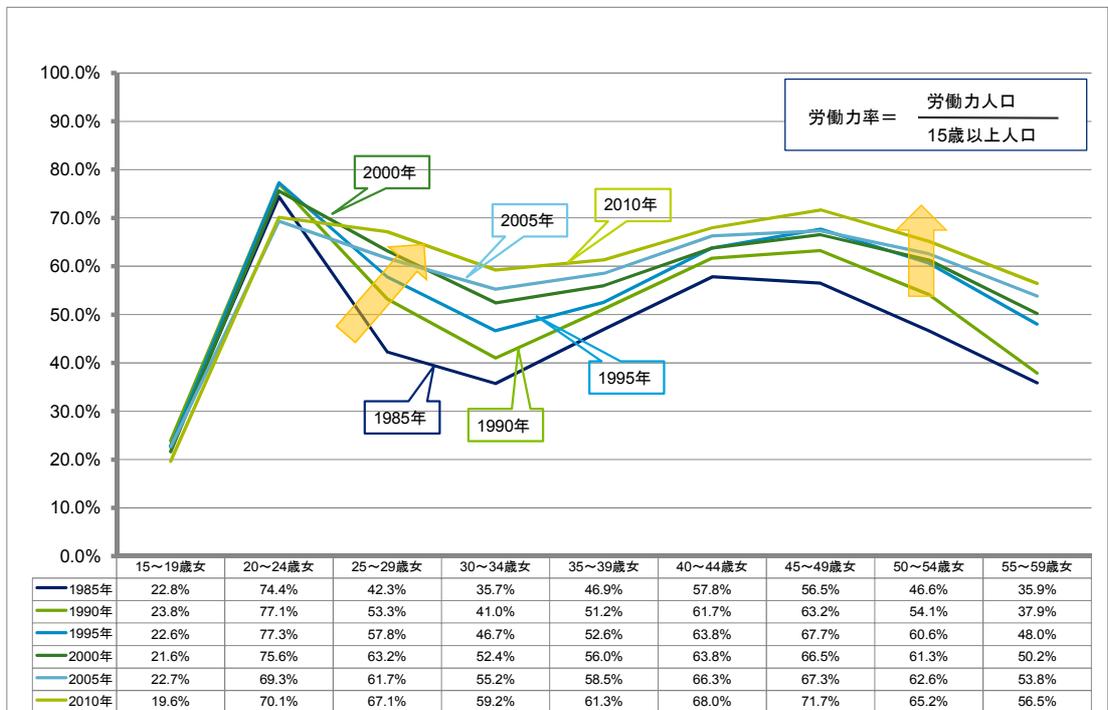
20～24歳の男性の労働力率は、2005年以降、70%台まで低下しています。



出所:国勢調査(1985年～2010年)のデータをもとに作成

【図 27 年齢階級別労働力の推移②／女性】

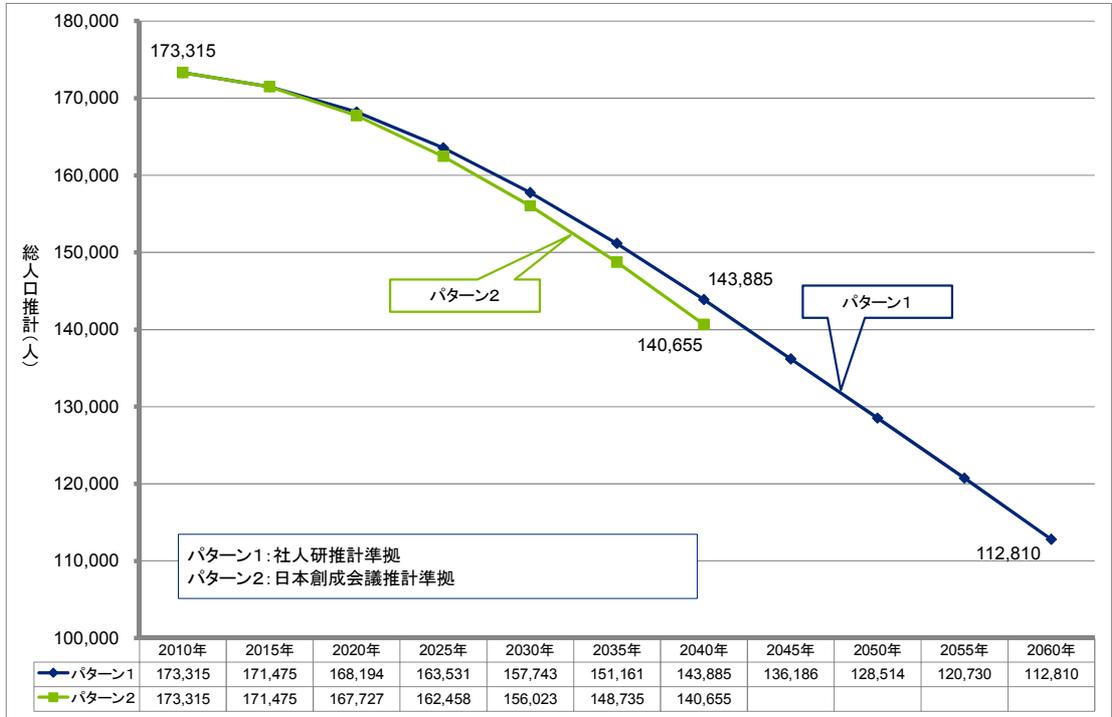
女性の労働力率は25歳以上で上昇しており、特に25～34歳で大きく上昇しています。



出所:国勢調査(1985年～2010年)のデータをもとに作成

【図 28 総人口推計の比較】

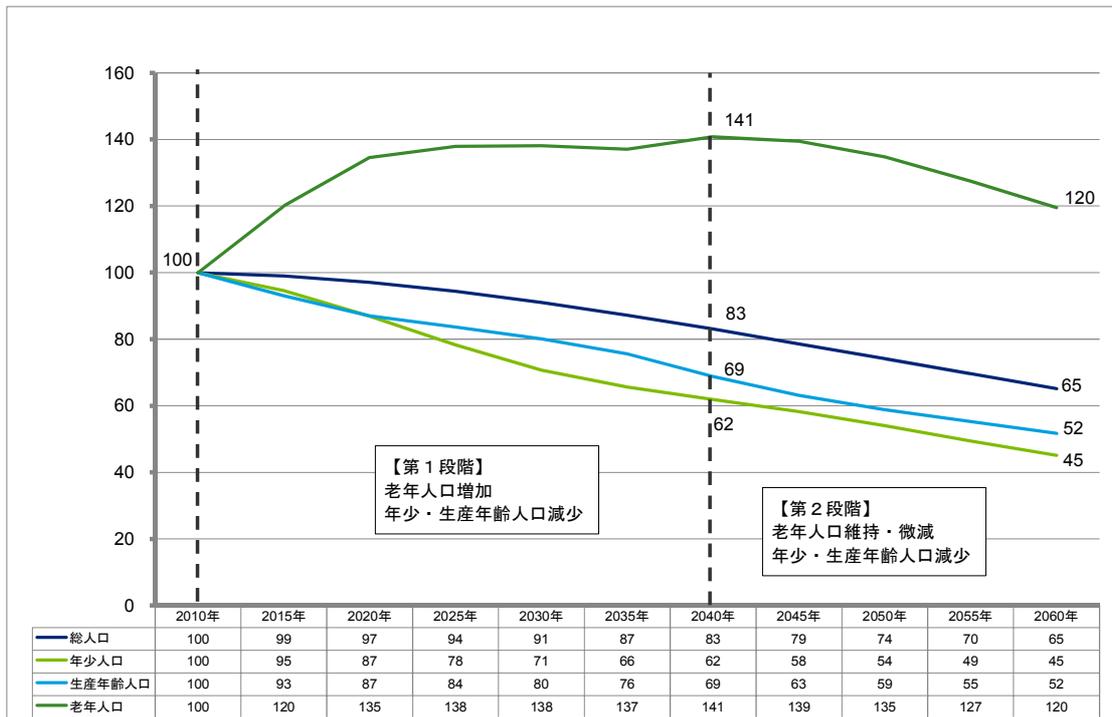
社人研（パターン1）の推計では、苫小牧市の人口は、2040年に143,885人、2060年に112,810人に、日本創成会議（パターン2）の推計では、2040年に140,655人と見込まれています。



出所: 社人研推計及び日本創成会議のデータをもとに作成

【図 29 人口の減少段階】

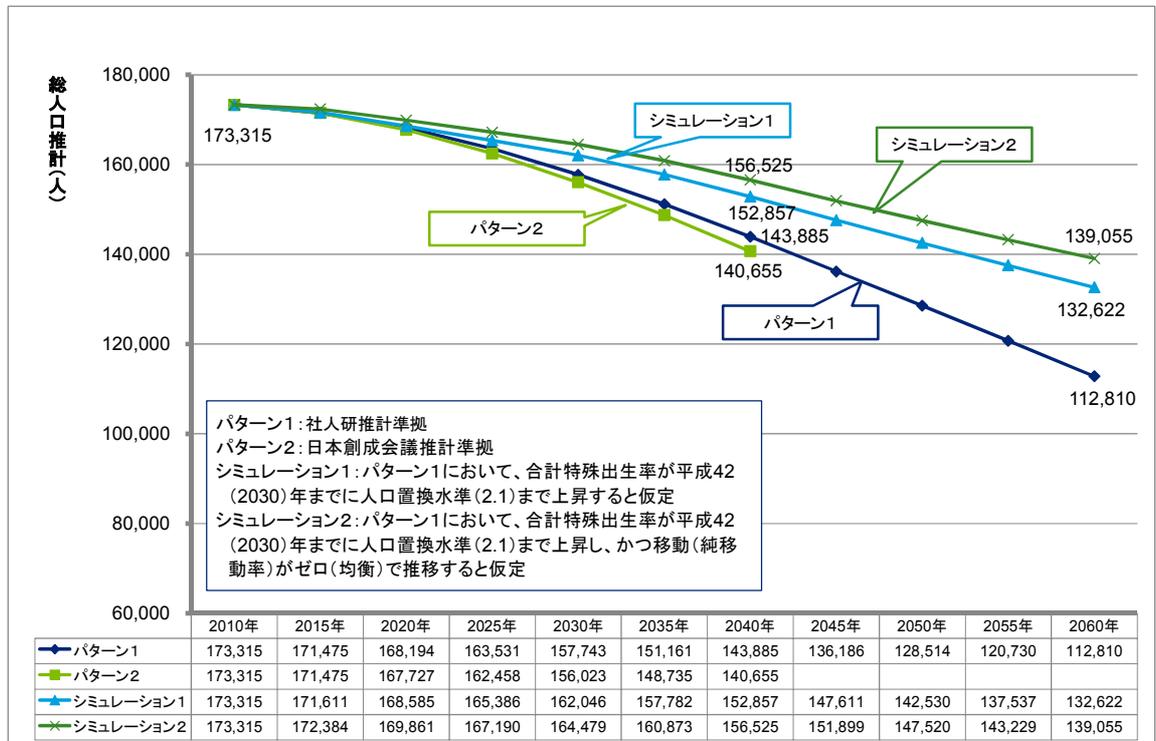
2010年を100として、年齢区分別人口をみると、人口の3つの減少段階の中で、苫小牧市は2040年までは第1段階、それ以降は第2段階になると見込まれます。



出所: 国勢調査(2010年)、社人研推計(2015年～2060年)のデータをもとに作成

【図 30 総人口推計結果の比較(合計特殊出生率増、転出抑制シナリオ)】

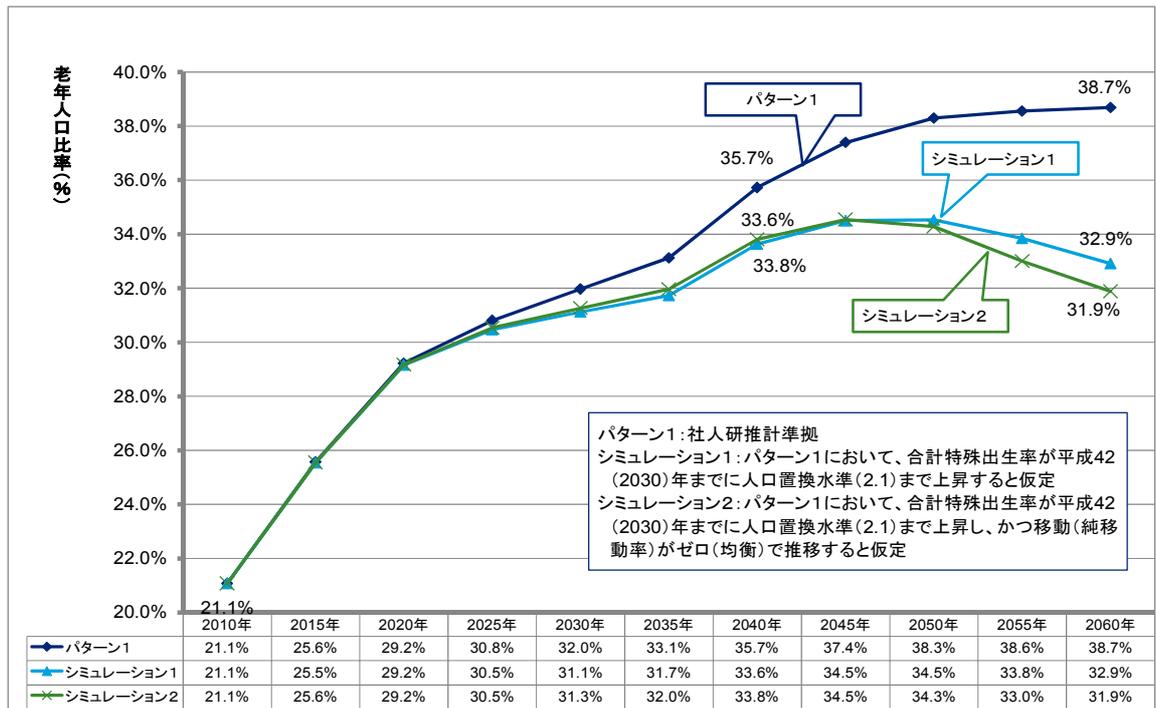
合計特殊出生率が 2030 年までに 2.1 まで上昇したと仮定した場合、現状の人口推計より 2040 年時点で約 9 千人、2060 年時点で約 2 万人多くなる見込みです。



出所: 国勢調査(2010年)、社人研推計(2015年～2060年)のデータをもとに作成

【図 31 老年人口比率の長期推計】

合計特殊出生率が 2030 年までに 2.1 まで上昇したと仮定した場合、老年人口比率の推計では、現状推計より 2040 年時点で約 2.1%、2060 年時点で約 5.8%低くなる見込みです。



出所: 国勢調査(2010年)、社人研推計(2015年～2060年)のデータをもとに作成

(2) 市民意識の分析

アンケート調査概要

人口減少に関する各種課題の要因を明確にするため、以下の対象者に対しアンケート調査を行い、結婚・出産・子育て、経済・雇用等に係る現状や希望の把握、分析等を行いました。

(7) 調査方法

対象者の抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収（但し学生は学校での配布・回収）
調査実施時期	2015/6/24～7/9（約2週間）

(イ) 調査対象

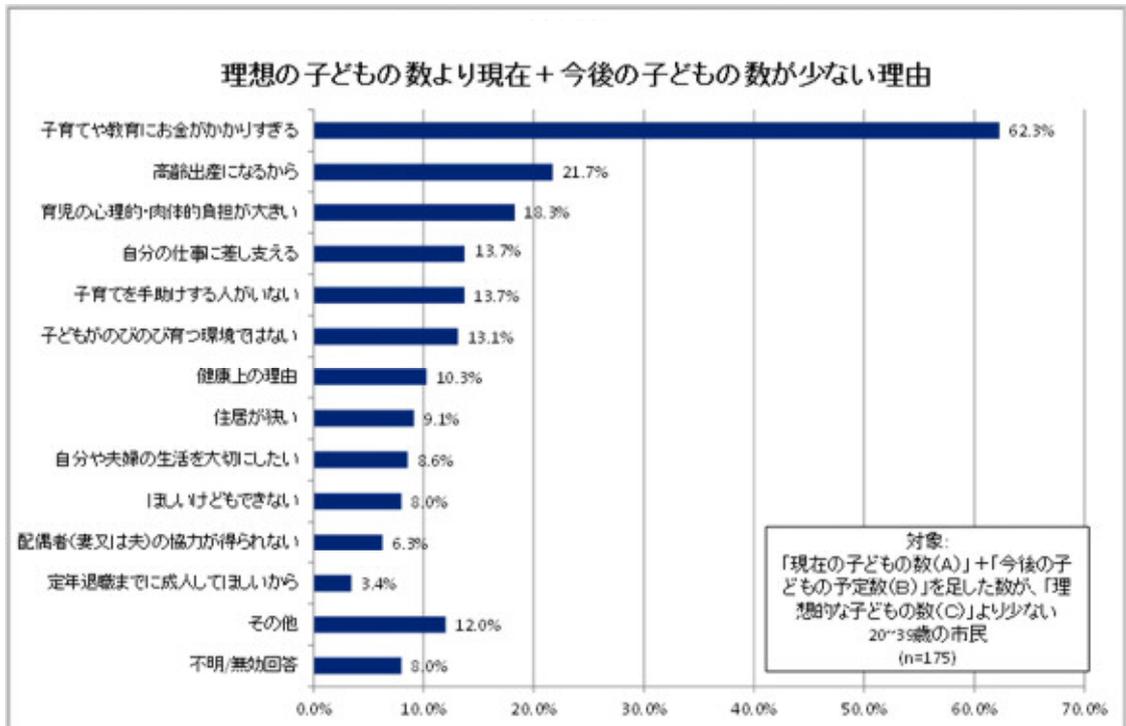
①20～39歳の市民	結婚、出産、子育て等に関する意識調査
②苫小牧市からの転出者	転出に関する意識調査（転出理由等）
③苫小牧市への転入者	転入に関する意識調査（転入理由等）
④市内の高校・大学等の学生	就職や進学に関する意識調査

(ウ) 配布数と回収率

	配布数	回収数	回収率
①20～39歳の市民	1,000票	360票	36.0%
②苫小牧市からの転出者	300票	111票	37.0%
③苫小牧市への転入者	1,000票	372票	37.2%
④市内の高校・大学等の学生	1,000票	930票	93.0%

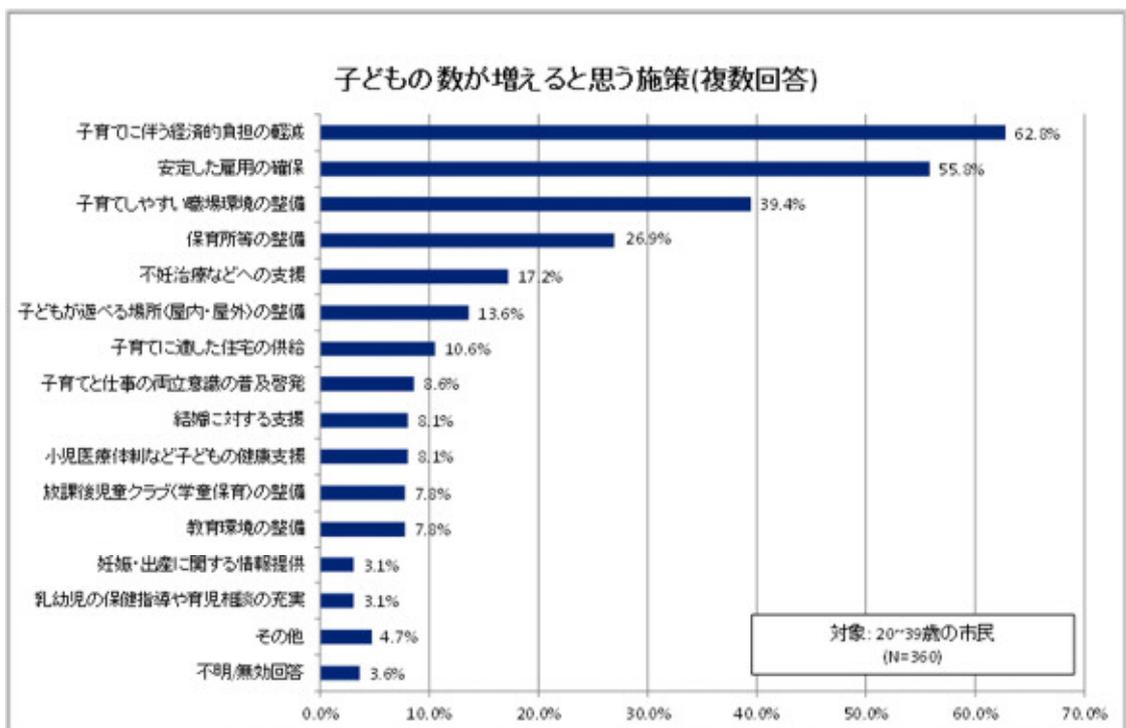
【図 32 理想の数に比べ、子どもが少ない理由】

理想の子どもの数より少ない理由をきいたところ、「お金がかかりすぎる」(62.3%)が最も多く、「高齢出産になるから」(21.7%)、「心理的・肉体的負担が大きい」(18.3%)が続いています。



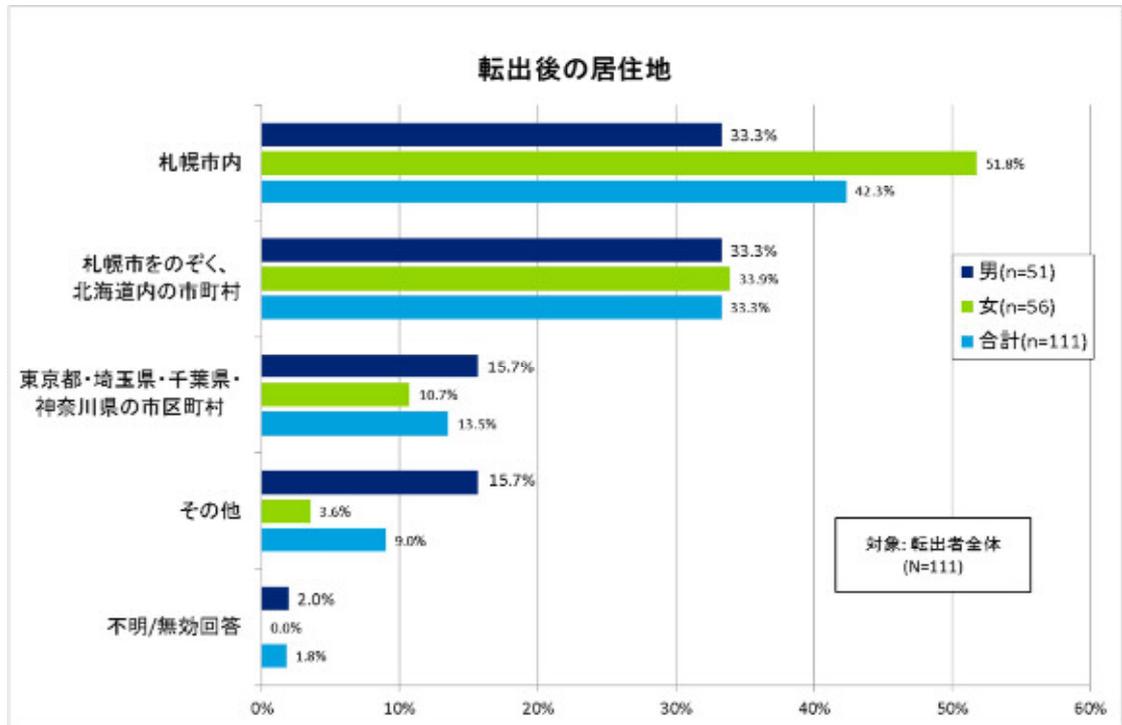
【図 33 子どもが増えると思う施策・対策】

子どもが増えるための支援・対策をきいたところ、「経済的負担の軽減」(62.8%)がもっとも多く、「安定した雇用の確保」(55.8%)が続いています。



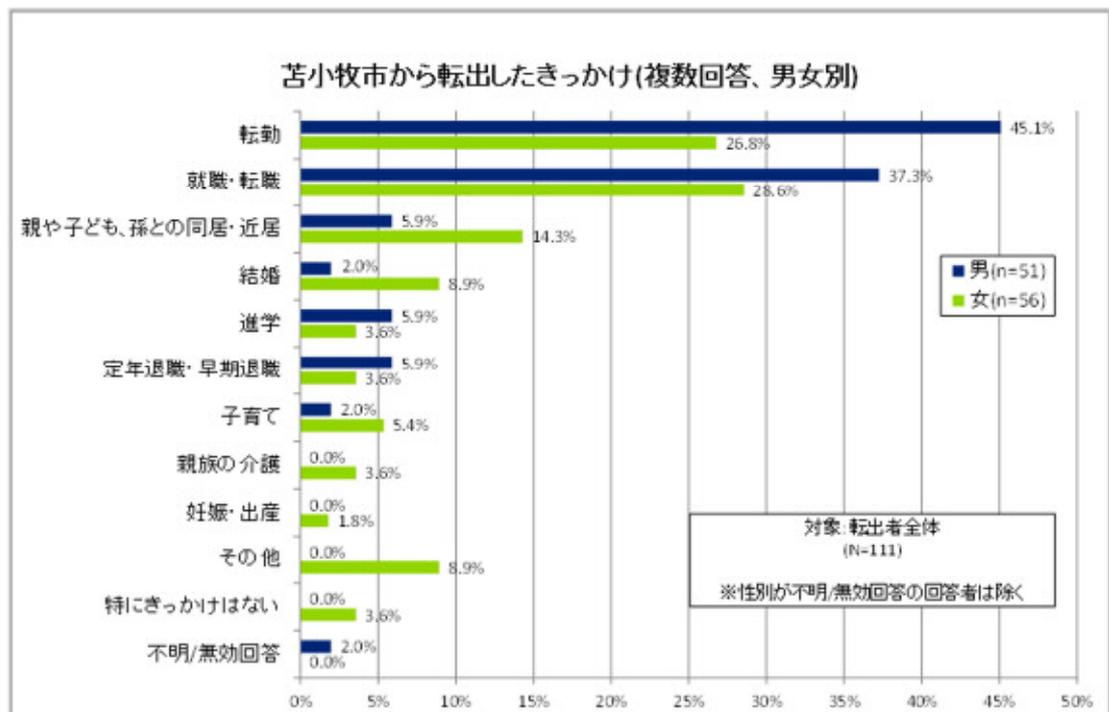
【図 34 転出後の居住地】

「札幌市内」が 42.3%ともっとも多く、次点が「札幌市をのぞく、北海道内の市町村」が 33.3%となっており、道内が 75.6%を占めています。



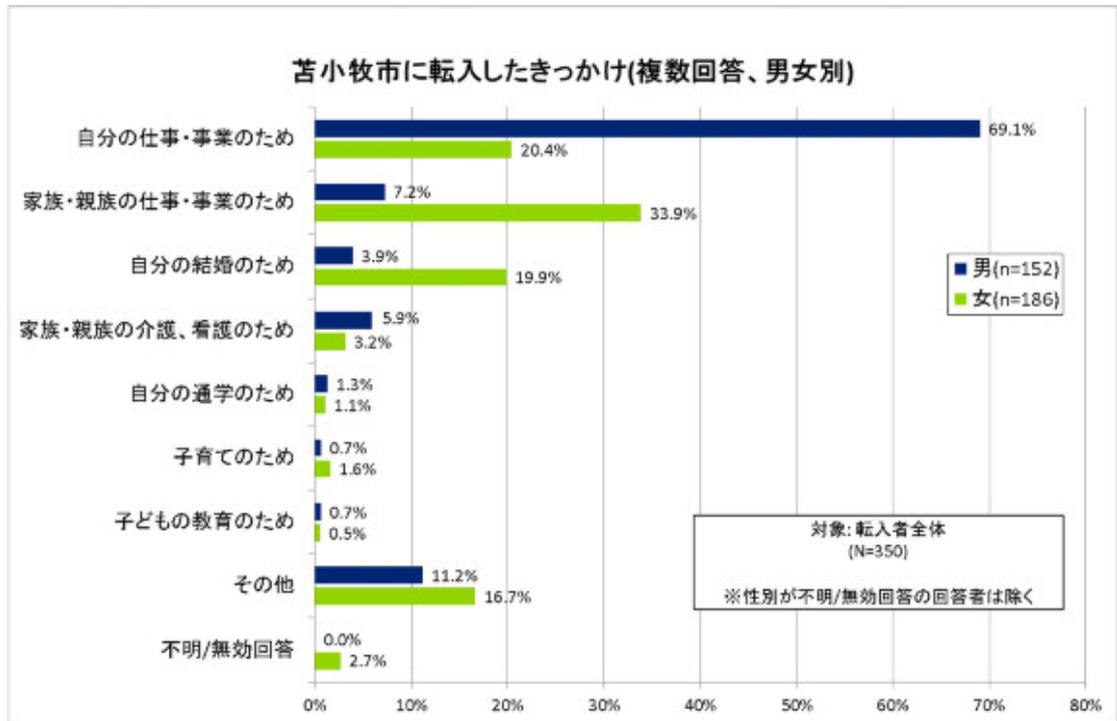
【図 35 転出のきっかけ】

転出したきっかけを男女別に見ると、男性は「転勤」や「就職・転職」など就業に関する理由が多い一方、女性は「親や子ども、孫との同居・近居」や「結婚」など、家族・親族との生活に関する理由が多くなっています。



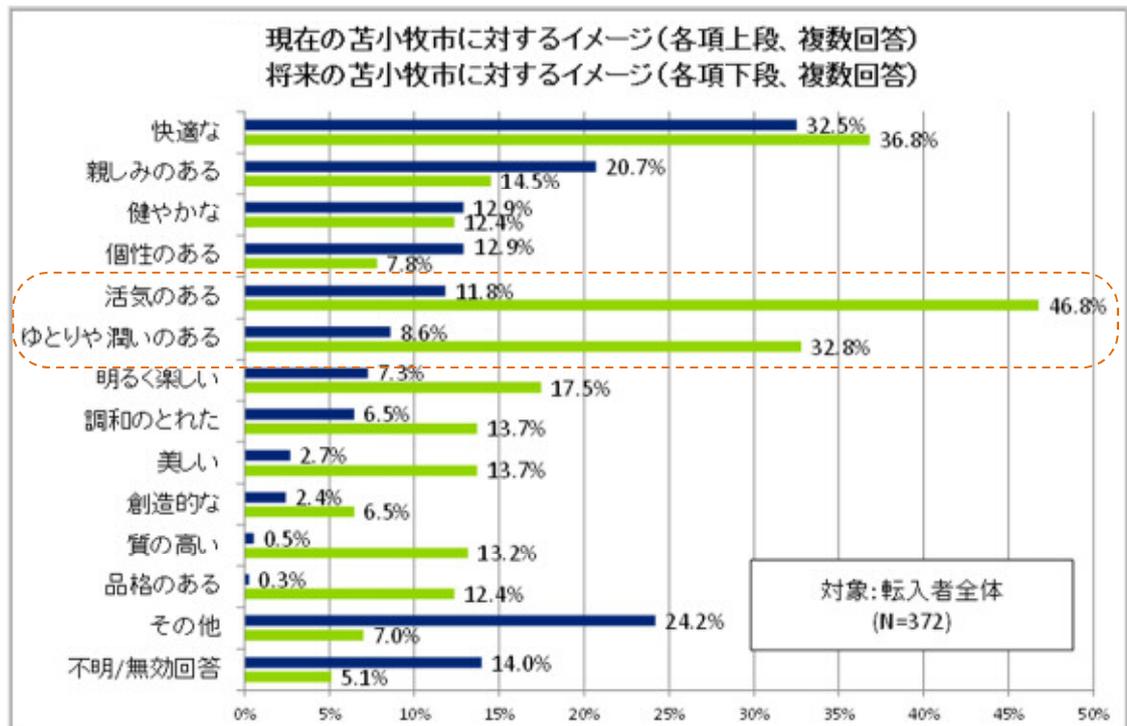
【図 36 転入のきっかけ】

転入のきっかけをきいたところ、男性では「自分の仕事・事業のため」が多く、女性では「家族・親族の仕事・事業のため」、「自分の結婚のため」も多くなっています。



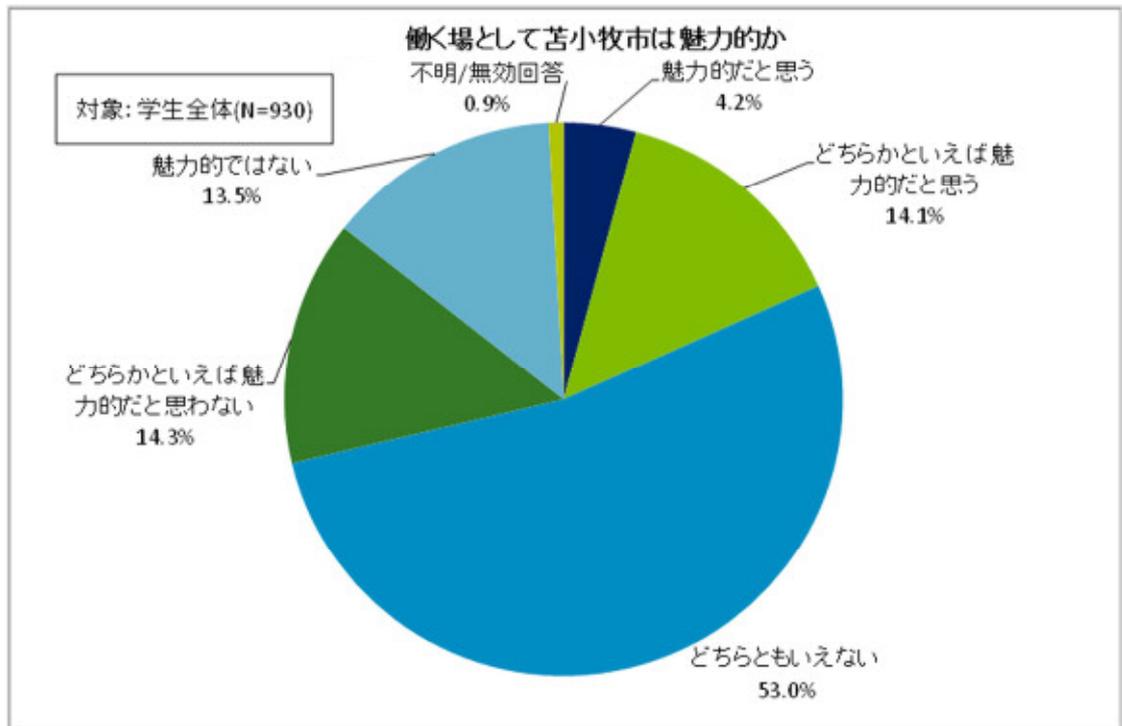
【図 37 苦小牧市のイメージ】

現在と将来を比較すると、「活気のある」や「ゆとりや潤いのある」の項目で将来が現在を上回っており、将来期待したいイメージ(現在不足しているイメージ)と捉えられます。



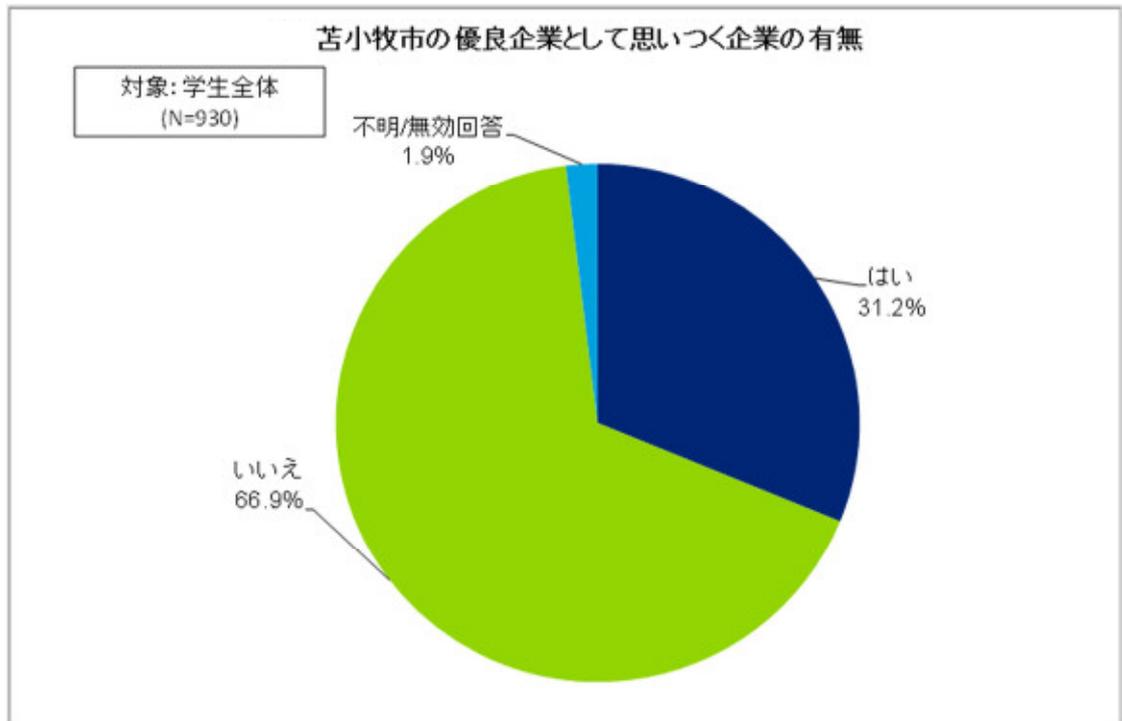
【図 38 働く場としての苦小牧市の魅力度】

働く場としての苦小牧市を魅力的だと回答しているのは、「魅力的だと思う」(4.2%)と「どちらかといえば魅力的だと思う」(14.1%)を合わせて、18.3%です。



【図 39 苦小牧市の優良企業として思いつく企業の有無】

苦小牧市の優良企業として思いつく企業があるかを聞いたところ、「はい」と回答したのは全体の31.2%です。



(3) まちの強み弱み（暮らしに関する指標）

生活環境に関する状況

苫小牧市の「生活環境」の指標を周辺市と比較してみると、「ショッピングセンターまでの距離」や「大学までの距離」などで、比較した周辺市の中で最も低い水準にあります。一方で、「空気のきれいさ」、「水のきれいさ」など、自然環境では優位性が見られます。

No.	カテゴリー区分	指標名	苫小牧市	千歳市	室蘭市	札幌市	データ出所
1	生活利便性	ショッピングセンターへの距離	3.1km	2.3km	2.8km	1.6km	生活コストの「見える化」システム
2	生活利便性	飲食店の集積度	4.5件/可住地km ²	2.7件/可住地km ²	15.9件/可住地km ²	28.9件/可住地km ²	生活コストの「見える化」システム
4	生活利便性	鉄道駅までの距離	2.2km	2.5km	1.9km	1.7km	生活コストの「見える化」システム
5	働きやすさ	通勤通学時間(※都道府県指標)	28.5分	28.5分	28.5分	28.5分	生活コストの「見える化」システム
7	教育・子育て	小中学校までの距離	1.1km	1.1km	1.5km	0.9km	生活コストの「見える化」システム
8	教育・子育て	学校での子供に対する先生の目の届きやすさ	18.0人/先生1人	19.1人/先生1人	16.5人/先生1人	20.5人/先生1人	生活コストの「見える化」システム
9	教育・子育て	大学(短大除く)までの距離	10.9km	7.5km	7.1km	3.0km	生活コストの「見える化」システム
10	教育・子育て	地域の保育所の待機児童率	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	生活コストの「見える化」システム
11	医療・福祉	老人福祉施設の在所率	99.7%	88.0%	100%超	88.9%	生活コストの「見える化」システム
12	医療・福祉	病院又は診療所までの距離	0.7km	0.8km	0.8km	0.5km	生活コストの「見える化」システム
13	医療・福祉	高度な救命措置が可能な救命救急センターまでの所要時間	77.2分	60.2分	116.6分	22.5分	生活コストの「見える化」システム
14	災害	今後30年間に、震度6以上の揺れが発生する確率	3.4%	1.1%	1.4%	1.2%	生活コストの「見える化」システム
16	自然環境	周辺での緑(農地や森林)の多さ(市町村総面積に占める、農地・森林・湖沼の面積の割合)	67.3%	76.9%	49.1%	63.3%	生活コストの「見える化」システム
17	自然環境	空気のきれいさ(大気汚染物質の濃度)	0.010ppm	0.011ppm	0.011ppm	0.015ppm	生活コストの「見える化」システム
18	自然環境	水のきれいさ(名水・湧水の有無)	湧水有	名水有	無し	無し	生活コストの「見える化」システム
19	自然環境	年間平均気温	7.6℃	7.1℃	8.5℃	8.2℃	生活コストの「見える化」システム
21	ライフスタイル	治安の良さ(刑法犯認知件数)	86.7件/万人	106.8件/万人	49.9件/万人	97.0件/万人	生活コストの「見える化」システム
23	ライフスタイル	1住宅当たり延べ面積【平方メートル】	89.17	89.18	84.81	81.36	住宅・土地統計調査

子育て環境に関する状況

苫小牧市の「子どもの子育て環境」の指標を周辺市と比較してみると、保育所の待機児童数（2014年10月時点）は札幌市よりは低いもののゼロではありません。人口1,000人あたりの公園数は北海道や札幌市に比べ高い水準にあります。

No.	指標名	苫小牧市	千歳市	室蘭市	札幌市	北海道	データ出所
1	保育所入所待機児童数	60人	0人	—人	760人	1075人	札幌市・北海道：保育所入所待機児童数調査 ^{*1} 、苫小牧市：苫小牧市HP ^{*2} 、千歳市：「待機児童解消加速化プラン」集計結果
5	子ども(0～4歳)千人当たりの保育所数	2.77箇所	1.94箇所	3.35箇所	3.38箇所	4.50箇所	住民基本台帳年齢階級別人口 社会福祉施設等調査
6	子ども(0～4歳)千人当たりの幼稚園数	2.38箇所	2.15箇所	3.68箇所	1.74箇所	2.49箇所	住民基本台帳年齢階級別人口 学校基本調査
9	人口1,000人当たりの都市公園数	1.85箇所	2.12箇所	1.30箇所	1.40箇所	1.31箇所	公共施設状況調経年比較表 住民基本台帳年齢階級別人口
12	人口10万人当たりの病院・診療所数	63.05箇所	67.03箇所	15.34箇所	78.48箇所	—箇所	住民基本台帳年齢階級別人口 医療施設調査
15	子どものいる夫婦世帯に対する3世代世帯割合	8.6%	7.1%	9.3%	6.8%	11.5%	国勢調査

*1 北海道全体の待機児童数は、政令指定都市・中核都市を除いた「北海道」の値に札幌市、函館市、旭川市の値を加え算出(2014/10/1)

*2 苫小牧市公式ウェブサイト(2014/10/1)<http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/kenko/kosodate/kanrenshisetsu/kyokahoikujo/taikijidou.html>

3. 人口の将来展望

(1) 目指すべき将来の方向性

課題と方向性

総人口の推移や産業構造等の人口動向や市民や学生へのアンケート結果といった現状分析から、苫小牧市の課題を抽出しました。

現状分析結果から課題の抽出	
① 就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。札幌市や首都圏への転出を抑制するような雇用環境の充実が課題である。	
(人口動向分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 年齢別にみると、20～29歳の転出が最も多い。20歳代の若者が、毎年2,000人近く苫小牧市から出て行っている。 ・ 転出超過の移動先は、札幌市、首都圏が大半を占め、男性は首都圏への転出の割合が女性よりも高い。
(アンケート)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高校生、大学生等の場合、市外への転出理由は進学や就職が最も多い。 ・ 「苫小牧市の優良企業として思いつく企業があるか」については半数以上(66.9%)が「いいえ」と回答している。
② 現在の合計特殊出生率を維持しても人口は減ることから、減少傾向にある若い女性人口を増やすとともに、子育ての経済的負担感の軽減が課題である。	
(人口動向分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 合計特殊出生率は1.51と全国や北海道に比べ高いが、若い女性人口(15～35歳)は減少傾向にある。 ・ 有配偶率の推移をみると、30～39歳の男性、25～34歳の女性の低下が著しい。
(アンケート)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理想の子どもの数に対し、実際の子どもの数が少ないと回答した人は、約半数(48.6%)である。 ・ 理想の子どもの数が持てない理由の上位は、「子育てや教育にお金がかかりすぎる(62.3%)」である。
③ 地域コミュニティの活性化や域内交通の利便性向上など、生活環境の改善が課題である。	
(人口動向分析)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北海道内の周辺市町村からの転入がほとんどである。 ・ 年代は20～39歳の世代が多くなっている。
(暮らしに関する指標)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「暮らしに関する指標」において、周辺市町村に比べ、差別化できる項目が少ない。
(アンケート)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 苫小牧市のイメージでは、「活気のある」に対する現在と将来のギャップが大きい。(≒今足りない要素) ・ 苫小牧市が住みにくい理由として「交通の利便性が悪い」「娯楽に関する施設が整っていない」などが上位である。 ・ 苫小牧市の良さを内外にPRできていない。(自由記述「苫小牧といたらコレという売りがほしい」「水がいいのにPR不足」など)

課題を踏まえた目指すべき将来の方向性

抽出した課題を整理し、目指すべき将来の方向を整理しました。また、抽出した課題以外に、現状分析では挙がらなかったものの、必要な課題として認識される④を追加しています。

課題の整理

- ① 就職時期の若年世代の転出超過が目立つ。札幌市や首都圏への転出を抑制するような雇用環境の充実が課題である。
- ② 現在の合計特殊出生率を維持しても人口は減ることから、減少傾向にある若い女性人口を増やすとともに、子育ての経済的負担感の軽減が課題である。
- ③ 地域コミュニティの活性化や域内交通の利便性向上など、生活環境の改善が課題である。
- ④ これまで人口増加を維持できたのは製造業をはじめとする企業誘致の影響が大きく、今後人口減少局面をむかえる中で、更なる競争力向上が喫緊の課題である。

目指すべき将来の方向性

- ① 市内の雇用環境を維持・向上させるとともに、市内の住みやすさを改善し、札幌市をはじめとする若年層の転出を抑制する。
- ② 子育て・教育しやすい環境を整備するとともに、結婚・子育て世代(特に女性)の転入を増やし、合計特殊出生率を向上させる。
- ③ 生活環境を改善し、苫小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やUIJ ターンをより増加させる。
- ④ 北海道内はもとより、国際的な競争力を持つ市として、企業誘致をはじめ、民間投資を呼び込むための誘致活動を充実させる。

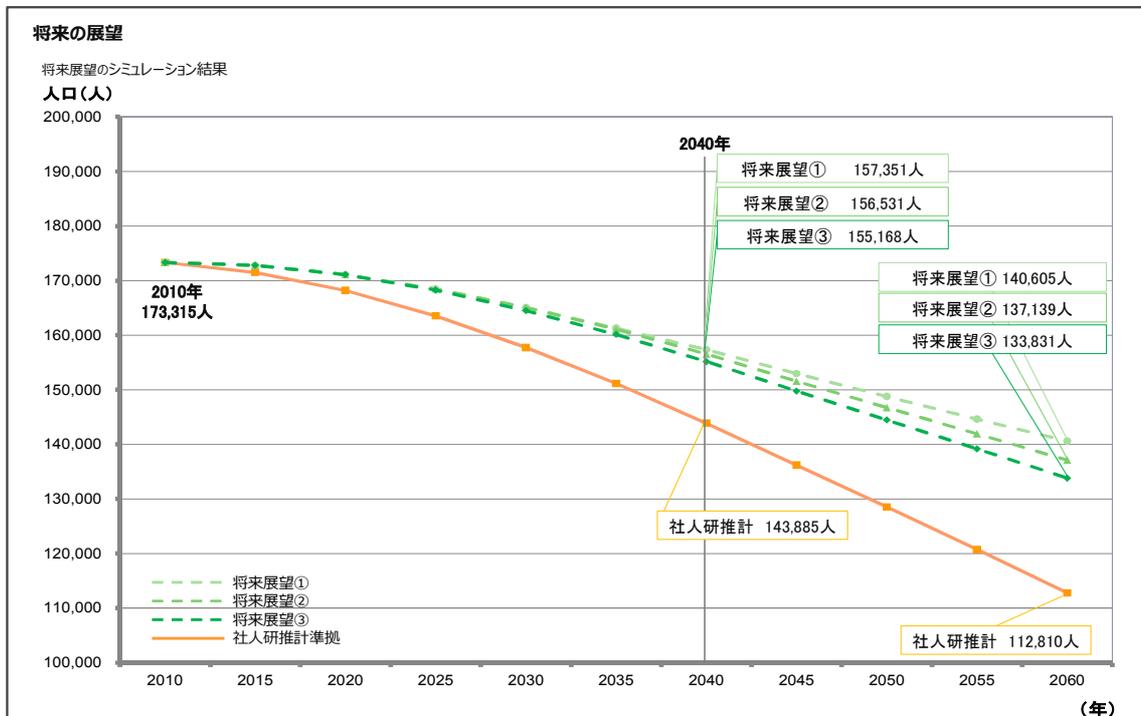
(2) 将来展望人口の導出

将来展望の考え方

社人研の推計（パターン1）に対し、苫小牧市が目指すべき将来の方向性を踏まえ、以下の3パターンのシミュレーション（将来展望①～③）を行いました。

人口増減に影響を与える「合計特殊出生率」「純移動率」のうち、純移動率については、特に転出が多い20歳代、今後の子育て世代となる可能性の高い30歳代を引き上げ（0%→1%）、合計特殊出生率については、2040年までに1.80、1.90、2.07の3つのパターンに段階的に引き上げ、その後、その値を維持すると仮定し、シミュレーションを行ないました。その結果、将来展望②では、2040年には約15万人、2060年には約13万人の人口を維持することができ、社人研に準拠した推計に比べ、人口減少抑制に効果が見られます。

	合計特殊出生率 (自然動態)	純移動率 (社会動態)	推計値(単位:人)	
			2040年	2060年
将来展望①	2040年までに段階的に引き上げ (合計特殊出生率 1.51→2.07)	移動率ゼロ + 20～30歳代の 純移動を引き上げ(0%→1%)	157,351	140,605
将来展望②	2040年までに段階的に引き上げ (合計特殊出生率 1.51→1.90)	移動率ゼロ + 20～30歳代の 純移動を引き上げ(0%→1%)	156,531	137,139
将来展望③	2040年までに段階的に引き上げ (合計特殊出生率 1.51→1.80)	移動率ゼロ + 20～30歳代の 純移動を引き上げ(0%→1%)	155,168	133,831



(3) 人口の将来展望

苫小牧市が将来にわたり、まちとしての活力を維持し、総合計画で掲げる「人間環境都市」を実現していくためには、国の長期ビジョン及び本市の人口動向分析の調査結果等を考慮し、苫小牧市が将来目指すべき人口の将来展望として、2040年の時点で約15万人、2060年の時点で約13万人の人口維持を目指します。

《人口ビジョンに基づく人口将来展望》

現在人口 <u>173,798人</u> ※	→ 2040年(平成52年) <u>約15万人</u> を維持する
	→ 2060年(平成72年) <u>約13万人</u> を維持する

※2015年10月末現在の人口